

Windows 版 VMware View Client の使用

Windows 版 View Client 5.2

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-000807-02

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2012 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

- 1 Windows 版 VMware View Client の使用 5
- 2 Windows ベースの View Client のシステム要件とセットアップ 7
 - Windows クライアントのシステム要件 7
 - ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 9
 - マルチメディア リダイレクト (MMR) の使用の要件 10
 - サポートされている View デスクトップのオペレーティング システム 11
 - View Portal のクライアント ブラウザ要件 11
 - スマート カード認証要件 11
 - View Client 向けの View 接続サーバの準備 12
- 3 Windows 版 View Client のインストール 13
 - Windows ベースの View Client または View Client with Local Mode をインストールする 13
 - View Portal を使用して View Client をインストールする 15
 - View Portal に表示される View Client ダウンロード リンクを構成する 16
 - View Client のサイレント インストール 17
- 4 エンド ユーザー用に View Client を構成 23
 - URI を使用して View Client を設定 23
 - エンドユーザーの証明書確認の構成 27
 - コマンド ラインからの View Client の実行 29
- 5 サーバ接続とデスクトップの管理 33
 - View デスクトップへのログイン 33
 - デスクトップの切り替え 35
 - デスクトップからのログオフまたは切断 36
- 6 View デスクトップの操作 37
 - 機能サポーター一覧 37
 - 国際化 38
 - USB デバイスの接続 39
 - USB デバイス再起動時に再接続するためのクライアント構成 40
 - テキストとイメージのコピー アンド ペースト 41
 - Adobe Flash の表示の制御 42
 - View デスクトップからの印刷 42
- 7 ローカル モードでのデスクトップの操作 45
 - ローカル モード デスクトップの最初のチェックアウト 45
 - ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド 46
 - デスクトップのバックアップ 46
 - デスクトップのチェックイン 47

デスクトップのロールバック 47
エンドポイント リソースの使用方法の構成 48

- 8 View Client のトラブルシューティング 53
 - View Client が予期せずに終了する場合の対処 53
 - デスクトップのリセット 53
 - View Client のアンインストール 54

インデックス 55

Windows 版 VMware View Client の使用

このガイド『Windows 版 VMware View Client の使用』では、データセンター内の View デスクトップに接続するために、Microsoft Windows クライアントシステムに VMware View™ ソフトウェアをインストールして使用方法について説明します。

このドキュメントには、Windows 版 View Client のインストールおよび使用のためのシステム要件と手順が記載されています。

対象読者

これらの情報は、デスクトップおよびノート型コンピュータなどの Microsoft Windows クライアントシステムを含む VMware View 展開を設定する必要がある管理者を対象としています。これらの情報は、仮想マシンテクノロジーおよびデータセンターの運用に精通している経験豊富なシステム管理者向けに記述されています。

Windows ベースの View Client のシステム要件とセットアップ

2

View のクライアント コンポーネントを実行するシステムは、ハードウェアとソフトウェアの特定の要件を満たす必要があります。

Windows システムの View Client では、View 接続サーバに接続するときに、プロキシ設定などについて、Microsoft Internet Explorer のインターネット設定を使用します。Internet Explorer の設定が適切であり、Internet Explorer から View 接続サーバの URL にアクセスできることを確認してください。Internet Explorer 7、8、9 を使用できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)](#)
- [ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 \(P. 9\)](#)
- [マルチメディア リダイレクト \(MMR\) の使用の要件 \(P. 10\)](#)
- [サポートされている View デスクトップのオペレーティング システム \(P. 11\)](#)
- [View Portal のクライアント ブラウザ要件 \(P. 11\)](#)
- [スマート カード認証要件 \(P. 11\)](#)
- [View Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 12\)](#)

Windows クライアントのシステム要件

Microsoft Windows 7、Vista、または XP オペレーティング システムを使用する PC またはノートパソコンに Windows 版の View Client をインストールできます。

View Client をインストールする PC またはノート PC とその周辺機器は、一定のシステム要件を満たしている必要があります。

モデル 標準の x86 または x86 64 ビット互換のデスクトップまたはノートパソコン

メモリ 最小で 1GB の RAM

オペレーティング システム

OS	バージョン	SP
Windows 8 Desktop	32 または 64 ビット	
Windows 7	32 または 64 ビット	なしまたは SP1
Windows XP	32 ビット	SP3
Windows Vista	32 ビット	SP1 または SP2

View 接続サーバ、セキュリティサーバ、および View Agent	<p>Windows 7 および Windows Vista では、以下のエディションがサポートされません: Home、Enterprise、Professional/Business、および Ultimate。Windows XP では、Home および Professional エディションがサポートされます。</p> <p>Windows 8 では、以下のエディションがサポートされます: Windows 8 Pro - Desktop および Windows 8 Enterprise - Desktop。</p> <p>4.6 以降</p> <p>企業のファイアウォールの外部からクライアントシステムが接続する場合には、セキュリティサーバを使用することを推奨します。セキュリティサーバでは、クライアントシステムで VPN 接続が必要にはなりません。</p>
VMware View の表示プロトコル PCoIP のハードウェア要件	<p>PCoIP または RDP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SSE2 拡張命令に対応する x86 ベースのプロセッサ。800MHz 以上のプロセッサ処理速度。 ■ NEON 搭載の ARM プロセッサ (推奨) または WMMX2 エクステンションで 1Ghz 以上のプロセッサ速度。 ■ さまざまなモニタ セットアップをサポートするための、システム要件を超える RAM 空き容量。一般的なガイドとして次の式を使用してください。 $20\text{MB} + (24 * (\# \text{ monitors}) * (\text{monitor width}) * (\text{monitor height}))$ <p>大まかなガイドとして、次の計算が使用できます。</p> <p>1 monitor: 1600 x 1200: 64MB 2 台のモニタの場合: 1600 x 1200: 128MB 3 台のモニタの場合: 1600 x 1200: 256MB</p>
RDP のハードウェア要件	<ul style="list-style-type: none"> ■ SSE2 拡張命令に対応する x86 ベースのプロセッサ。800MHz 以上のプロセッサ処理速度。 ■ NEON 搭載の ARM プロセッサ (推奨) または WMMX2 エクステンションで 600MHz 以上のプロセッサ速度。 ■ 128MB RAM。
RDP のソフトウェア要件	<ul style="list-style-type: none"> ■ マルチ モニタでは RDC 6.0 以降が必要。 ■ Windows XP および Windows XP Embedded システムでは、Microsoft RDC 6.x を使用。 ■ Windows Vista には RDC 6.x が含まれるが RDC 7 を推奨。 ■ Windows 7 には RDC 7 が含まれる。Windows 7 SP1 には RDC 7.1 が含まれる。 ■ Windows XP デスクトップ仮想マシンでは、Microsoft Knowledge Base (KB) の記事番号 323497 および 884020 に記載されている RDP パッチをインストールする必要があります。RDP パッチをインストールしなければ、Windows Sockets failed error というエラーメッセージがクライアントに表示される場合があります。 ■ View Agent インストーラは、ホスト OS の現在の RDP ポートに一致するようにインバウンド RDP 接続に対してローカルのファイアウォール規則を設定します。これは通常 3389 です。この RDP ポート番号を変更する場合、関連付けられたファイアウォール規則を変更する必要があります。
	RDC バージョンを Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

ローカル モード デスクトップのハードウェア要件

View デスクトップをローカル コンピュータで実行するためにチェックアウトするときは、クライアント コンピュータのハードウェアが、ローカル システムと、その上で実行する仮想マシンの両方をサポートしている必要があります。

PC ハードウェア

表 2-1 では、View デスクトップの各種オペレーティング システムのハードウェア要件について説明します。

表 2-1. プロセッサの要件

クライアント コンピュータの要件	説明
PC	x86 64 ビット互換 LAHF/SAHF のロング モードでのサポート
CPU の数	マルチプロセッサ システムをサポート
CPU の速度	Windows XP ローカル デスクトップの場合で 1.3GHz 以上 (推奨: 1.6GHz) Windows 7 デスクトップの場合で 1.3GHz 以上、Aero 効果を使用するには 2.0GHz 以上
Intel プロセッサ	Pentium 4、Pentium M (PAE 対応)、Core、Core 2、Core i3、Core i5、および Core i7 プロセッサ Windows 7 Aero の場合: Intel Dual Core
AMD プロセッサ	Athlon、Athlon MP、Athlon XP、Athlon 64、Athlon X2、Duron、Opteron、Turion X2、Turion 64、Sempron、Phenom、および Phenom II AMD 製 CPU には、ロングモードでのセグメント制限のサポートが必要です。 Windows 7 Aero の場合: Althon 4200+ 以上
View デスクトップ上に 64 ビットのオペレーティング システム	Intel Pentium 4 および Core 2、および EM64T/Intel 仮想化技術搭載の Core i7 プロセッサ Intel CPU は、ホスト システム BIOS で VT-x サポートを有効にする必要があります。VT-x のサポートを有効にするために必要な BIOS 設定は、システム ベンダーによって異なります。VT-x サポートが有効になっているかどうかを確認する方法については、VMware ナレッジ ベースの記事 http://kb.vmware.com/kb/1003944 を参照してください。 ほとんどの AMD64 プロセッサ (初期改定 C Opteron プロセッサを除く)
Windows 7 Aero の GPU	nVidia GeForce 8800GT 以上 ATI Radeon HD 2600 以上

クライアント コンピュータのオペレーティング システムは 32 ビットまたは 64 ビットのいずれかになりますが、64 ビットオペレーティング システム搭載の View デスクトップを実行するには、ハードウェアは 64 ビット互換のものにし、Intel または AMD の仮想化支援技術を有効にする必要があります。これらの条件を満たせば、32 ビットまたは 64 ビットのオペレーティング システムのいずれかを持つクライアントで 64 ビットのオペレーティング システムを搭載した View デスクトップを実行することができます。

ディスク領域

View デスクトップでオペレーティング システムのデフォルトのセットアップを使用する場合、実際に必要なディスク領域は、オペレーティング システムとアプリケーションを物理コンピュータにインストールして実行するためのディスク領域とほぼ同じです。

たとえば、Microsoft では 32 ビットの Windows 7 オペレーティング システムを実行するマシンのハード ディスク領域として 16GB を推奨しています。32 ビットの Windows 7 仮想マシンに 16GB 仮想ハード ディスクを構成した場合、ローカル デスクトップをチェックアウトするときには、実際に使用されるディスク領域のみがダウンロードされます。16GB が割り当てられているデスクトップの場合、実際にダウンロードされるサイズは 7GB です。

デスクトップがダウンロードされた後は、16GB のハード ディスクを構成した場合であれば、使用されるディスク領域が 16GB まで拡大できます。スナップショットはレプリケーション中に作成されるため、それに相当するディスク領域がさらに必要です。たとえば、ローカル デスクトップに 7GB のディスク領域が使用されている場合、スナップショットはクライアント コンピュータ上でさらに 7GB を消費します。

IDE ハード ディスク ドライブおよび SCSI ハード ディスク ドライブがサポートされています。

メモリ

クライアント コンピュータでホスト オペレーティング システムを実行するための十分なメモリに加えて、View デスクトップのオペレーティング システムに必要なメモリ、およびクライアント コンピュータと View デスクトップで実行するアプリケーションに必要なメモリが必要です。VMware では、Windows XP および Windows Vista には 2GB 以上を、また Windows 7 には 3GB 以上をお勧めします。メモリ要件については、お使いのゲスト オペレーティング システムとアプリケーションのマニュアルを参照してください。

1 台のコンピュータで実行するすべての仮想マシンに割り当てることができるメモリの総容量は、コンピュータの RAM 容量によってのみ制限されます。64 ビット コンピュータの View デスクトップごとの最大メモリ容量は 32GB です。

ディスプレイ

32 ビットのディスプレイ アダプタをお勧めします。3DMark '06 などの 3D ベンチマークは、一部のグラフィック ハードウェアで Windows Vista や Windows 7 仮想マシンを実行している場合、正確にレンダリングされない、あるいはまったくレンダリングされないことがあります。

View Client with Local Mode は DirectX9c をサポートします。DirectX9c は、対応 GPU が搭載されたクライアント システムで自動的に有効になります。DirectX9c は、3D 構築をオンにした Google Earth、Windows 7 Aero 効果、その他の 3D ゲームなどの 3D 機能に対応します。

720p 以上でビデオを再生するには、マルチプロセッサ システムが必要です。

Windows 7 Aero をサポートするための CPU および GPU の要件については、[表 2-1](#) を参照してください。

マルチメディア リダイレクト (MMR) の使用の要件

マルチメディア リダイレクト (MMR) は、仮想チャネルを使用して、クライアント コンピュータにマルチメディア ストリームを直接配信します。

MMR を使用すると、クライアント システムでマルチメディア ストリームが処理 (エンコードまたはデコード) されます。ローカル ハードウェアは、メディア コンテンツをフォーマットおよび再生し、それにより ESX/ESXi ホストでの要求をオフロードします。

View Client および View Client with Local Mode は、次のオペレーティング システムで MMR をサポートします。

- Windows XP
- Windows XP Embedded
- Windows Vista

MMR 機能はクライアント システムがサポートするメディア ファイル形式をサポートするので、クライアントにローカル デコーダが存在する必要があります。ファイル形式としては、MPEG2-1/MPEG-2/MPEG-4 Part 2、WMV 7/8/9、WMA、AVI、ACE、MP3、WAV などが該当します。

Windows Media Player 10 以降を使用し、それをローカル コンピュータまたはクライアント アクセス デバイスと View デスクトップの両方にインストールします。

MMR ポートをファイアウォール ソフトウェアに例外として追加する必要があります。MMR のデフォルトのポートは 9427 です。

注意 MMR が正しく動作するには、View Client のビデオ再生ハードウェアがオーバーレイをサポートしている必要があります。

Windows 7 クライアントと Windows 7 View デスクトップは、MMR をサポートしていません。Windows 7 クライアント エージェントの場合は、RDP 7 に含まれている Windows メディア リダイレクト機能を使用してください。

サポートされている View デスクトップのオペレーティング システム

管理者は、ゲスト オペレーティング システムを使用して仮想マシンを作成し、そのゲスト オペレーティング システムに View Agent をインストールします。エンド ユーザーは、クライアント デバイスからこれらの仮想マシンにログインできます。

サポートされているゲスト オペレーティング システムの一覧については、VMware View 4.6.x または 5.x のインストール ドキュメントの「View Agent でサポートされるオペレーティング システム」を参照してください。

View Portal のクライアント ブラウザ要件

クライアント システムからブラウザを開き、View 接続サーバ インスタンスを参照します。ここで表示される Web ページは View Portal と呼ばれ、View Client のインストーラ ファイルのダウンロード用リンクが用意されています。

View Portal を使用するには、次のいずれかの Web ブラウザが必要です。

- Internet Explorer 8
- Internet Explorer 9
- Firefox 6
- Firefox 7
- Safari 5 (Mac)

スマート カード認証要件

ユーザー認証のためにスマート カードを使用するクライアント システムは、特定の要件を満たす必要があります。

ユーザー認証のためにスマート カードを使用するクライアント システムは、以下のソフトウェアおよびハードウェアを使用する必要があります:

- View Client
- Windows 互換のスマート カード リーダー
- スマート カード ミドルウェア
- 製品固有のアプリケーション ドライバ

View デスクトップに製品固有のアプリケーション ドライバもインストールする必要があります。

View は PKCS#11 または Microsoft CryptoAPI プロバイダを使用するスマート カードおよびスマート カード リーダーをサポートします。オプションで ActivIdentity ActivClient ソフトウェア スイートをインストールできます。これはスマート カードとやりとりするためのツールを提供します。

スマート カードで認証するユーザーは、スマート カードまたは USB スマート カード トークンを持つ必要があり、各スマート カードにはユーザー証明書が含まれている必要があります。

スマートカードに証明書をインストールするには、登録ステーションとして機能するコンピュータを設定する必要があります。このコンピュータはユーザーに対してスマートカード証明書を発行する権限を持つ必要があり、証明書を発行するドメインのメンバである必要があります。

重要 スマートカードを登録する場合、出来上がる証明書のキーサイズを選択できます。ローカルデスクトップでスマートカードを使用するには、スマートカードの登録中に 1024 ビットまたは 2048 ビットのキーサイズを選択する必要があります。512 ビットキーの証明書はサポートされません。

Microsoft TechNet Web サイトには、Windows システムでのスマートカードのプランニングと実装についての詳細情報があります。

View Client システムでこれらの要件を満たすことに加えて、他の View コンポーネントは、スマートカードをサポートするために一定の構成要件を満たす必要があります：

- スマートカードの使用をサポートするために View servers を構成する詳細については、『VMware View 管理者ガイド』の「スマートカード認証の構成」トピックを参照してください。
- スマートカード認証を実装するために Active Directory で実行する必要がある場合のタスクの詳細については、『VMware View インストールガイド』のスマートカード認証のための Active Directory の準備についてのトピックを参照してください。

スマートカード認証はすべての View Client でサポートされません。スマートカードが View Client の特定のタイプでサポートされるかどうかを判断するには、該当するクライアントのタイプの『View Client の使用』の機能サポート一覧を参照してください。https://www.vmware.com/support/viewclients/doc/viewclients_pubs.html にアクセスしてください。

View Client 向けの View 接続サーバの準備

エンドユーザーが View デスクトップに接続できるようにするには、特定のタスクを管理者が実行する必要があります。

エンドユーザーが View 接続サーバまたはセキュリティサーバに接続して、View デスクトップにアクセスできるようになるには、プールの設定およびセキュリティの設定を構成する必要があります。

- セキュリティサーバを使用している場合、VMware では、View 接続サーバ 4.6.1 以降および View セキュリティサーバ 4.6.1 以降の使用を確認することを推奨しています。View 4.6 以降の『VMware View インストールガイド』を参照してください。
- クライアントデバイスに安全なトンネル接続を使用する予定で、その安全な接続が View 接続サーバまたはセキュリティサーバの DNS ホスト名を使用して構成される場合には、この DNS 名がクライアントデバイスによって解決できることを確認します。

安全なトンネルを有効または無効にするには、View 管理者で [View 接続サーバ設定の編集] ダイアログボックスに移動して、[デスクトップへの安全なトンネル接続を使用する] チェックボックスを使用します。

- 仮想デスクトッププールが作成済みであること、および使用予定のユーザーアカウントにこの View デスクトップへのアクセス権が付与されていることを確認します。デスクトッププールの作成については、『VMware View 管理ガイド』を参照してください。
- View Client で、RSA SecurID または RADIUS 認証などの 2 要素認証を使用するには、View 接続サーバでこの機能を有効にする必要があります。RADIUS 認証は、View 5.1 以降の View 接続サーバで使用できます。詳細については、『VMware View 管理者ガイド』で 2 要素認証に関するトピックを参照してください。

Windows 版 View Client のインストール

Windows ベースの View Client のインストーラは、VMware の Web サイトまたは View Portal から入手できます。View Portal は、View 接続サーバによって提供される Web アクセス ページです。View Client をインストールした後、エンド ユーザー用にさまざまな起動オプションを設定できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Windows ベースの View Client または View Client with Local Mode をインストールする \(P. 13\)](#)
- [View Portal を使用して View Client をインストールする \(P. 15\)](#)
- [View Portal に表示される View Client ダウンロード リンクを構成する \(P. 16\)](#)
- [View Client のサイレント インストール \(P. 17\)](#)

Windows ベースの View Client または View Client with Local Mode をインストールする

エンド ユーザーは、View Client を開いて物理マシンから仮想デスクトップに接続します。Windows ベースのインストーラ ファイルを実行して、View Client のすべてのコンポーネントをインストールできます。

View Client with Local Mode を使用すると、エンド ユーザーは仮想デスクトップのコピーをローカル コンピュータにダウンロードできます。その後、エンド ユーザーはネットワークに接続できない場合でも仮想デスクトップを使用できます。レイテンシーは最小になり、パフォーマンスは向上します。

View Client with Local Mode は、以前のリリースで View Client with Offline Desktop と呼ばれていた試験的な機能を完全にサポートしたものです。

この手順では、インタラクティブなインストール ウィザードを使用して View Client をインストールする方法を説明します。Microsoft Windows Installer (MSI) のコマンドライン サイレント インストール機能を使用したい場合は、以下を参照してください。[[View Client をサイレント インストールする \(P. 18\)](#)]。

開始する前に

- クライアント システムがサポートされているオペレーティング システムを使用していることを確認します。以下を参照してください。[[Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)](#)]。
- クライアント システムに管理者としてログインできることを確認します。
- View Agent がインストールされていないことを確認します。
- ローカル モードの前提条件：
 - ライセンスに View Client with Local Mode が含まれていることを確認します。
 - 次のどの製品もインストールされていないことを確認します。VMware View Client、VMware Player、VMware Workstation、VMware ACE、VMware Server。

- USB リダイレクトの前提条件：
 - クライアント デバイスを使用するユーザーが仮想デスクトップからローカルに接続された USB デバイスにアクセスできるようにするかどうかを決定します。アクセスできないようにする場合は、ウィザードで [USB リダイレクト] コンポーネントの選択をオフにするか、コンポーネントをインストールしてから GPO を使用して無効にします。

[USB リダイレクト] コンポーネントを常にインストールし、GPO を使用して USB アクセスを制御することを推奨します。この方法では、クライアントの USB リダイレクトを後で有効にすることになった場合にも、View Client を再インストールする必要はありません。詳細については、『VMware View 管理者ガイド』のポリシーの構成に関する章の「View Client 構成 ADM テンプレート設定」のトピックを参照してください。
 - [USB Redirection (USB リダイレクト)] コンポーネントをインストールする場合は、クライアント コンピュータで Windows の自動更新機能が無効になっていないことを確認します。
- エンド ユーザーが現在ログインしているユーザーとして View Client および仮想デスクトップにログインできる機能を使用するかどうかを決定します。ユーザーがクライアント システムにログインするときに入力した認証情報が、View 接続サーバインスタンスに、そして最終的には仮想デスクトップに渡されます。一部のクライアント OS はこの機能をサポートしていません。
- 仮想マシンをホストしている View 接続サーバインスタンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) をエンド ユーザーが入力する必要がないようにする場合は、インストールの間に指定できるように FQDN を決定します。

手順

- 1 管理者権限を持つユーザーとしてクライアント システムにログインします。
- 2 クライアント システムで、VMware 製品ページ (<http://www.vmware.com/products/>) から View Client のインストーラ ファイルをダウンロードします。

適切なインストーラ ファイルを選択します。<xxxxxx> はビルド番号、<y.y.y> はバージョン番号です。

オプション	操作
View Client を 64 ビット OS に	VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)
View Client を 32 ビット OS に	VMware-viewclient-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)

- 3 View Client のインストール プログラムを開始するには、インストーラ ファイルをダブルクリックします。
- 4 プロンプトに従って、必要なコンポーネントをインストールします。

VMware View Client サービスが Windows クライアント コンピュータにインストールされます。View Client のサービス名は `wsvm.exe` です。USB コンポーネントのサービス名は、`vmware-usbarbitrator.exe` および `vmware-view-usbd.exe` です。

次に進む前に

View Client を起動し、正しい仮想デスクトップにログインできることを確認します。以下を参照してください。[[View デスクトップへのログイン \(P. 33\)](#)] または [[View Portal を使用して View Client をインストールする \(P. 15\)](#)]。

View Portal を使用して View Client をインストールする

View Client または View Client with Local Mode アプリケーションをダウンロード、およびインストールするときは、ブラウザを開いて View Portal Web ページを参照する方法が便利です。View Portal を使用して、Windows および Mac クライアント コンピュータ用の View Client フル インストーラをダウンロードできます。

VMware ダウンロード ページを参照する以外の方法で View Client をダウンロードするには、View 接続サーバ URL を参照することもできます。View Portal のリンクが VMware ダウンロード ページ以外の場所にジャンプするよう、設定を構成することもできます。

開始する前に

- View Portal のリンクが VMware ダウンロード ページ以外の場所を示す必要がある場合は、以下を参照してください。[[View Portal に表示される View Client ダウンロード リンクを構成する \(P. 16\)](#)]。
- View 接続サーバインスタンスの URL がわかっていることを確認します。
- クライアント システムに管理者としてログインできることを確認します。
- クライアント システムがサポートされているオペレーティング システムを使用していることを確認します。以下を参照してください。[[Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)](#)]。
- View Agent がインストールされていないことを確認します。
- ローカル モードの前提条件：
 - ライセンスに View Client with Local Mode が含まれていることを確認します。
 - 次のどの製品もインストールされていないことを確認します。VMware View Client、VMware Player、VMware Workstation、VMware ACE、VMware Server。
- USB リダイレクトの前提条件：
 - クライアント デバイスを使用するユーザーが仮想デスクトップからローカルに接続された USB デバイスにアクセスできるようにするかどうかを決定します。アクセスできないようにする場合は、ウィザードで [USB リダイレクト] コンポーネントの選択をオフにするか、コンポーネントをインストールしてから GPO を使用して無効にします。

[USB リダイレクト] コンポーネントを常にインストールし、GPO を使用して USB アクセスを制御することを推奨します。この方法では、クライアントの USB リダイレクトを後で有効にすることになった場合にも、View Client を再インストールする必要はありません。詳細については、『VMware View 管理者ガイド』のポリシーの構成に関する章の「View Client 構成 ADM テンプレート設定」のトピックを参照してください。
 - [USB Redirection (USB リダイレクト)] コンポーネントをインストールする場合は、クライアント コンピュータで Windows の自動更新機能が無効になっていないことを確認します。

手順

- 1 管理者権限を持つユーザーとしてクライアント システムにログインします。
- 2 ブラウザを開き、仮想デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバインスタンスの URL を入力します。URL には、**http** ではなく、必ず **https** を使用してください。
- 3 お使いのオペレーティング システム (32 ビットまたは 64 ビット) とインストールする View Client の種類 (ローカル モード付き、またはなし) を示すリンクをクリックしてください。
- 4 ダイアログが表示されたら、インストーラ ファイルをクライアント システムに保存します。
- 5 View Client のインストール プログラムを開始するには、インストーラ ファイルをダブルクリックします。
- 6 プロンプトに従って、必要なコンポーネントをインストールします。

次に進む前に

View デスクトップに接続します。以下を参照してください。[[View デスクトップへのログイン \(P. 33\)](#)]。

View Portal に表示される View Client ダウンロード リンクを構成する

デフォルトでは、ブラウザを開き、View 接続サーバインスタンスの URL を入力すると、表示される View Portal ページには View Client をダウンロードする VMware ダウンロード サイトへのリンクが用意されています。このデフォルトは変更できます。

View Portal のデフォルトの View Client リンクは、互換性のある最新の View Client インストーラにジャンプします。ただし、内部 Web サーバにジャンプするリンクが必要な場合や特定のクライアントバージョンを View 接続サーバ上で使用可能にしたい場合があります。その場合は、別の URL にアクセスするよう、ページを再構成できます。

開始する前に

- 環境で使用する View Client のタイプ用のインストーラ ファイルをダウンロードします。View Client ダウンロード ページの URL は <https://www.vmware.com/go/viewclients> です。
- インストーラ ファイルをホストする HTTP サーバを決定します。ファイルは View 接続サーバインスタンスまたは別の HTTP サーバに配置できます。

手順

- 1 インストーラ ファイルが配置されている HTTP サーバでインストーラ ファイル用のフォルダを作成します。
たとえば、View 接続サーバホストの **ダウンロード** フォルダにファイルを配置するには、デフォルトのインストールディレクトリで以下のパスを使用します：
C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\broker\webapps\downloads
ファイルにアクセスするリンクには、**https://<server-name>/downloads/<client-installer-file-name>** の形式の URL が使用されます。たとえば、**view.mycompany.com** という名前のサーバの場合、Windows 用 View Client に対して次の URL を使用します。**https://view.mycompany.com/downloads/VMware-viewclient.exe**。この例では、**ダウンロード** という名前のフォルダは **webapps root** フォルダにあります。
- 2 View Client インストーラ ファイルをこのフォルダにコピーします。
フォルダが View 接続サーバに配置されている場合、VMware View 接続サーバサービスを再起動しなくても、このフォルダのファイルをどれでも置き換えることができます。
- 3 View 接続サーバマシンで、**<install-path>\Server\Extras\PortalExamples** に存在する **portal-links.properties** ファイルと **portal.properties** ファイルをコピーします。
- 4 **portal** フォルダをディレクトリ **C:\ProgramData\VMware\VDM** に作成し、**portal-links.properties** と **portal.properties** ファイルを **portal** フォルダにコピーします。

- 5 `C:\ProgramData\VMware\VDM\portal\portal-links.properties` ファイルを編集し、インストーラファイルの新しい場所にリンクするようにします。

このファイル内の行は編集が可能で、また追加のリンクを作成する必要がある場合は行の追加もできます。また、行の削除もできます。

以下の例に、Windows 版 View Client 用のリンク 2 件、および Linux 版 View Client 用のリンク 2 件を作成するプロパティを示します。

```
link.win=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y-XXXX>.exe#win
link.win.1=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-<y.y.y-XXXX>.exe#win
link.linux=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y-XXXX>.rpm#linux
link.linux.1=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-<y.y.y-XXXX>.tar.gz#linux
```

この例で、`<y.y.y-XXXX>` は、バージョン番号とビルド番号を示します。行の末尾にあるテキスト「win」は、クライアントが Windows オペレーティングシステムを所有している場合、このリンクがブラウザに表示されることを示します。Windows の場合は「win」、Linux の場合は「linux」、Mac OS X の場合は「mac」を使用します。

- 6 `C:\ProgramData\VMware\VDM\portal\portal.properties` ファイルを編集し、これらのリンクで表示するテキストを指定します。

これらの行は、`portal-links.properties` のキー名に基づいた #keys という名前のファイルのセクションに表示されます。

次の例は、`link.win` と `link.win.1` で指定されたリンクに対応するテキストを示します。

```
text.win=View Client for Windows 32 bit Client users
text.win.1=View Client for Windows 64 bit Client users
```

- 7 VMware View 接続サーバサービスを再起動します。

エンドユーザーが View 接続サーバの URL を入力すると、指定されたテキストとともにリンクが表示されます。これらのリンクは、指定された場所を示します。

View Client のサイレントインストール

コマンドラインでインストーラのファイル名とインストールオプションを入力することにより、View Client のサイレントインストールを実行できます。サイレントインストールを使うと、大規模なエンタープライズに View のコンポーネントを効率よく展開できます。

View Client with Local Mode のサイレントインストールを許可するグループポリシーを設定する

View Client with Local Mode のサイレントインストールを行うには、昇格された権限でのインストールを許可するように Microsoft Windows のグループポリシーを構成する必要があります。

View Client のサイレントインストールには、これらのグループポリシーを設定する必要はありません。これらのポリシーは、View Client with Local Mode の場合にのみ必要です。

コンピュータと、クライアントコンピュータのユーザーに対し、Windows インストーラのグループポリシーを設定する必要があります。

開始する前に

View Client with Local Mode をインストールする Windows クライアントコンピュータに対して管理者権限があることを確認します。

手順

- 1 クライアント コンピュータにログインして、[Start (スタート)] - [Run (ファイル名を指定して実行)] をクリックします。
- 2 「gpedit.msc」と入力し、[OK] をクリックします。
- 3 グループ ポリシー オブジェクト エディタで [Local Computer Policy (ローカル コンピュータ ポリシー)] - [Computer Configuration (コンピュータの構成)] をクリックします。
- 4 [Administrative Templates (管理テンプレート)]、次に [Windows Components (Windows コンポーネント)] を展開し、[Windows Installer (Windows インストーラ)] フォルダを開き、[Always install with elevated privileges (常にシステム特権でインストールする)] をダブルクリックします。
- 5 [Always Install with Elevated Privileges Properties (常にシステム特権でインストールのプロパティ)] ウィンドウで、[Enabled (有効)] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 6 左側のペインで、[User Configuration (ユーザーの構成)] をクリックします。
- 7 [Administrative Templates (管理テンプレート)]、次に [Windows Components (Windows コンポーネント)] を展開し、[Windows Installer (Windows インストーラ)] フォルダを開き、[Always install with elevated privileges (常にシステム特権でインストールする)] をダブルクリックします。
- 8 [Always Install with Elevated Privileges Properties (常にシステム特権でインストールのプロパティ)] ウィンドウで、[Enabled (有効)] をクリックし、[OK] をクリックします。

次に進む前に

View Client with Local Mode をサイレントでインストールします。

View Client をサイレント インストールする

Microsoft Windows インストーラ (MSI) のサイレントインストール機能を使用して、複数の Windows コンピュータに View Client または View Client with Local Mode をインストールできます。サイレントインストールではコマンドラインを使用するので、ウィザードのプロンプトに回答する必要はありません。

開始する前に

- クライアントシステムがサポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。[「Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)」](#) を参照してください。
- クライアントシステムに管理者としてログインできることを確認します。
- View Agent がインストールされていないことを確認します。
- ローカル モードの前提条件：
 - サイレントインストールに必要な Windows インストーラのグループポリシーがクライアント コンピュータで構成されていることを確認します。[「View Client with Local Mode のサイレントインストールを許可するグループポリシーを設定する \(P. 17\)」](#) を参照してください。
 - ライセンスに View Client with Local Mode が含まれていることを確認します。
 - 次のどの製品もインストールされていないことを確認します。VMware View Client、VMware Player、VMware Workstation、VMware ACE、VMware Server。
- エンド ユーザーが現在ログインしているユーザーとして View Client および仮想デスクトップにログインできる機能を使用するかどうかを決定します。ユーザーがクライアントシステムにログインするときに入力した認証情報が、View 接続サーバインスタンスに、そして最終的には仮想デスクトップに渡されます。一部のクライアント OS はこの機能をサポートしていません。
- MSI インストーラのコマンドライン オプションについて理解しておきます。[「Microsoft Windows インストーラのコマンドライン オプション \(P. 21\)」](#) を参照してください。

- View Client で使用できるサイレント インストール (MSI) のプロパティについて理解します。[View Client のサイレント インストールのプロパティ (P.19)] を参照してください。
- エンドユーザーが仮想デスクトップからローカルに接続された USB デバイスにアクセスできるようにするかどうかを決定します。許可しない場合は、MSI のプロパティ **ADDLOCAL** に許可する機能のリストを設定し、USB 機能は除外します。詳細については、[View Client のサイレントインストールのプロパティ (P.19)] を参照してください。
- 仮想マシンをホストしている View 接続サーバインスタンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) をエンドユーザーが入力する必要がないようにする場合は、インストールの間に指定できるように FQDN を決定します。

手順

- 1 クライアントシステムで、VMware 製品ページ (<http://www.vmware.com/jp/products/>) から View Client のインストーラ ファイルをダウンロードします。

適切なインストーラ ファイルを選択します。<xxxxxx> はビルド番号、<y.y.y> はバージョン番号です。

オプション	操作
View Client を 64 ビット OS に	VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)
View Client を 32 ビット OS に	VMware-viewclient-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)

- 2 Windows クライアント コンピュータでコマンド プロンプトを開きます。

- 3 インストール コマンドを 1 行に入力します。

この例では、シングルサインオン機能と USB リダイレクト機能を指定して View Client をインストールします。デフォルトの View 接続サーバインスタンスが View Client ユーザー用に構成されます。VMware-viewclient-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn REBOOT=ReallySuppress
VDM_SERVER=cs1.companydomain.com ADDLOCAL=Core,TSS0,USB"

この例では View Client with Local Mode をインストールします。VMware-viewclientwithlocal-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn ADDLOCAL=Core,MVDI"

注意 Core 機能は必須です。

VMware View Client サービスが Windows クライアント コンピュータにインストールされます。

次に進む前に

View Client を起動し、正しい仮想デスクトップにログインできることを確認します。[View デスクトップへのログイン (P.33)] または [View Portal を使用して View Client をインストールする (P.15)] を参照してください。

View Client のサイレント インストールのプロパティ

コマンドラインから View Client をサイレント インストールするときに、特定のプロパティを含めることができます。<PROPERTY>=<value> 形式を使用して、Microsoft Windows Installer (MSI) がプロパティと値を解釈できるようにする必要があります。

コマンドラインで使用できる View Client のサイレント インストールのプロパティを表 3-1 に示します。

表 3-1. View Client をサイレント インストールするための MSI のプロパティ

MSI プロパティ	説明	デフォルト値
INSTALLDIR	View Client ソフトウェアをインストールするパスとフォルダ。 例: <code>INSTALLDIR=""D:\abc\my folder""</code> パスを囲む対になった 2 個の二重引用符により、MSI インストーラはスペースをパスの有効な一部として解釈します。 この MSI プロパティはオプションです。	%ProgramFiles%¥ ¥View¥
VDM_SERVER	View Client ユーザーがデフォルトで接続する View 接続サーバインスタンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。このプロパティを構成すると、View Client ユーザーはこの FQDN を指定する必要がなくなります。 例: <code>VDM_SERVER=cs1.companydomain.com</code> この MSI プロパティはオプションです。	なし
DESKTOP_SHORTCUT	View Client のデスクトップ ショートカット アイコンを構成します。 値 1 はショートカットをインストールします。値 0 はショートカットをインストールしません。 この MSI プロパティはオプションです。	1
QUICKLAUNCH_SHORTCUT	View Client のクイック起動トレイにショートカット アイコンを構成します。 値 1 はショートカットをインストールします。値 0 はショートカットをインストールしません。 この MSI プロパティはオプションです。	1
STARTMENU_SHORTCUT	[Start (スタート)]メニューに View Client のショートカットを構成します。 値 1 はショートカットをインストールします。値 0 はショートカットをインストールしません。 この MSI プロパティはオプションです。	1

サイレント インストール コマンドでは、MSI のプロパティ **ADDLOCAL=** を使用して、View Client インストーラが構成する機能を指定できます。各サイレント インストール機能は、対話形式のインストールの間に選択できるセットアップ オプションに対応しています。

表 3-2 に、コマンド ラインで入力できる View Client の機能と対話形式インストールの対応するオプションを示します。

表 3-2. View Client サイレント インストールの機能と、対話形式でのカスタム セットアップ オプション

サイレント インストールの機能	対話型インストールでのカスタム セットアップ オプション
Core MSI プロパティ ADDLOCAL= で個々の機能を指定する場合は、 Core を含める必要があります。 ADDLOCAL=ALL を指定すると、Core を含む View Client と View Client with Local Mode のすべての機能がインストールされます。	なし。 対話形式のインストールでは、View Client のコア機能はデフォルトでインストールされます。
MVDI View Client with Local Mode をインストールし、個別の機能を ADDLOCAL= で指定する場合は、この機能を使用します。 ADDLOCAL=ALL を指定すると、MVDI を含む View Client with Local Mode のすべての機能がインストールされます。	なし。 View Client with Local Mode を対話形式でインストールするとき、MVDI 機能はデフォルトでインストールされます。 View Client を対話形式でインストールするときは、MVDI 機能は使用できません。
ThinPrint	仮想印刷
TSSO	シングル サインオン (SSO)
USB	USB リダイレクト

Microsoft Windows インストーラのコマンドラインオプション

View コンポーネントをサイレントでインストールするには、Microsoft Windows インストーラ (MSI) のコマンドラインオプションとプロパティを使用する必要があります。View コンポーネントのインストーラは MSI プログラムであり、MSI の標準機能を使用します。MSI のコマンドラインオプションを使用して、View コンポーネントをサイレントアンインストールすることもできます。

MSI の詳細については、マイクロソフトの Web サイトを参照してください。MSI のコマンドラインオプションについては、Microsoft Developer Network (MSDN) ライブラリの Web サイトで、MSI コマンドラインオプションを検索してください。MSI コマンドラインの使用方法を確認するには、View コンポーネントのコンピュータでコマンドプロンプトを開き、「msiexec /?」と入力します。

View コンポーネントのインストーラをサイレントで実行するには、まずはじめに、インストーラを一時ディレクトリに抽出して対話形式のインストールを開始するブートストラッププログラムを無効にします。

表 3-3 は、インストーラのブートストラッププログラムを制御するコマンドラインオプションです。

表 3-3. View コンポーネントのブートストラッププログラムのコマンドラインオプション

オプション	説明
/s	ブートストラップスプラッシュ画面と抽出ダイアログを無効にし、対話形式のダイアログが表示されないようにします。 例: <code>VMware-viewconnectionserver-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s</code> サイレントインストールを実行するには /s オプションが必要です。例において、<xxxxxx> はビルド番号、<y.y.y> はバージョン番号を示します。
/v" <MSI_command_line_options>"	コマンドラインで入力した二重引用符で囲まれた文字列を MSI で解釈されるオプションのセットとして渡すことをインストーラに指示します。コマンドラインでの入力を二重引用符で囲む必要があります。/v の後とコマンドラインの最後に二重引用符を記述します。 例: <code>VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"<command_line_options>"</code> スペースを含む文字列を MSI インストーラに解釈させるには、文字列を 2 個の二重引用符で囲みます。たとえば、スペースを含むインストールパス名に View コンポーネントをインストールするような場合です。 例: <code>VMware-viewconnectionserver-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"<command_line_options> INSTALLDIR=""d:\abc\my folder"""</code> この例では、MSI インストーラはインストールディレクトリパスを渡し、文字列を 2 つのコマンドラインオプションとして解釈することはありません。コマンドライン全体を囲む最後の二重引用符に注意してください。 /v"<command_line_options>" オプションは、サイレントインストールを実行するために必要です。

以降のサイレントインストールは、コマンドラインオプションと MSI プロパティ値を MSI インストーラ `msiexec.exe` に渡すことで制御します。MSI インストーラには、View コンポーネントのインストールコードが含まれます。インストーラは、コマンドラインで入力された値とオプションを使用して、View コンポーネントに固有のインストールでの選択項目とセットアップオプションを解釈します。

表 3-4 は、MSI インストーラに渡されるコマンドラインオプションと MSI のプロパティ値です。

表 3-4. MSI のコマンドライン オプションとプロパティ

MSI のオプションまたはプロパティ	説明
/qn	<p>インストーラ ウィザード ページを表示しないように MSI インストーラに指示します。</p> <p>たとえば、View Agent をサイレントでインストールし、デフォルトのセットアップ オプションと機能のみを使用するような場合です。</p> <p>VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn"</p> <p>例において、<xxxxxx> はビルド番号、<y.y.y> はバージョン番号を示します。</p> <p>または、/qb オプションを使用すると、非対話形式の自動インストールでウィザード ページを表示できます。インストールの進行と共にウィザードのページが表示されますが、ページに応答することはできません。</p> <p>サイレントインストールを実行するには /qn または /qb オプションが必要です。</p>
INSTALLDIR	<p>View コンポーネントの代替インストール パスを指定します。</p> <p>インストール パスを指定するには、<INSTALLDIR>=<path> の形式を使用します。View コンポーネントをデフォルトのパスにインストールする場合は、この MSI プロパティを省略できます。この MSI プロパティは省略可能です。</p>
ADDLOCAL	<p>インストールするコンポーネント固有の機能を指定します。対話形式のインストールでは、View インストーラで表示されるカスタム セットアップ オプションを選択します。MSI プロパティ ADDLOCAL を使用すると、これらのセットアップ オプションをコマンドラインで指定できます。</p> <p>使用可能なすべてのカスタム セットアップ オプションをインストールするには、ADDLOCAL=ALL と入力します。</p> <p>例：VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn ADDLOCAL=ALL"</p> <p>MSI プロパティ ADDLOCAL を使用しないと、デフォルトのセットアップ オプションがインストールされます。</p> <p>個別のセットアップ オプションを指定するには、セットアップ オプション名をカンマで区切った一覧を入力します。名前をスペースで区切らないでください。</p> <p><ADDLOCAL>=<value,value,value...> という形式を使用します。</p> <p>たとえば、ゲスト OS にインストールする View Agent に View Composer Agent および PCoIP の機能を付加する場合は、次のように指定します。</p> <p>VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn ADDLOCAL=Core,SVIAgent,PCoIP"</p> <p>注意 Core 機能は View Agent に必須です。</p> <p>この MSI プロパティは省略可能です。</p>
REBOOT	<p>REBOOT=ReallySuppress オプションを使用すれば、システムが再起動する前に、システム構成タスクを完了できます。</p> <p>この MSI プロパティは省略可能です。</p>
/l*v <log_file>	<p>ログ情報を指定したログ ファイルに詳細出力で書き込みます。</p> <p>例：/l*v ""%TEMP%\vmmsi.log""</p> <p>この例では、対話形式のインストールの間に生成されるログと似た詳細なログ ファイルが生成されます。</p> <p>このオプションを使用すると、特定のインストールのみに適用されるカスタム機能を記録できます。記録された情報を使用すると、その後のサイレントインストールでインストール機能を指定できます。</p> <p>/l*v オプションは省略可能です。</p>

エンド ユーザー用に View Client を構成

View Client は、エンド ユーザー用にログインおよびデスクトップ選択エクスペリエンスを簡素化するために複数の設定メカニズムを提供していますが、セキュリティ ポリシも強制します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [URI を使用して View Client を設定 \(P. 23\)](#)
- [エンドユーザーの証明書確認の構成 \(P. 27\)](#)
- [コマンドラインからの View Client の実行 \(P. 29\)](#)

URI を使用して View Client を設定

uniform resource identifiers (URI) を使用して、View Client を起動するためにエンド ユーザーがクリックするリンク付きの Web ページまたは電子メールを作成し、View 接続サーバに接続し、特定の設定オプションで固有のデスクトップを起動できます。

View Client 1.6 以降では、エンド ユーザー用の Web または電子メールのリンクを作成することで、View デスクトップへのログイン プロセスを簡素化できます。部分的または以下のすべての情報を提供する URI を作成することでこれらのリンクを作成すれば、エンド ユーザーは入力する必要がありません:

- View 接続サーバのアドレス
- View 接続サーバのポート番号
- Active Directory ユーザー名
- Active Directory ユーザー名と異なる場合、RADIUS または RSA SecurID ユーザー名
- ドメイン名
- デスクトップ表示名
- ウィンドウ サイズ
- リセット、ログオフ、およびロール バックを含むデスクトップ アクション
- 表示プロトコル
- USB デバイスをリダイレクトするオプション

URI を作成するには、View Client 固有のパスおよびクエリ部分と共に **vmware-view** URI スキーマを使用します。

注意 View Client が既にエンド ユーザーのクライアント コンピュータにインストールされている場合に限り、URI を使用して View Client を起動できます。

vmware-view URI を作成するための構文

構文には、`vmware-view` URI スキーム、デスクトップを指定するためのパス部分、そしてオプションでデスクトップのアクションまたは構成オプションを指定するためのクエリが含まれます。

VMware View URI の仕様

以下の構文を使用して View Client を起動するための URI を作成します:

```
vmware-view://[<authority-part>][/<path-part>][?<query-part>]
```

必要となる唯一の要素は URI スキーム `vmware-view` です。一部のクライアント OS のバージョンによっては、スキーマ名は大文字と小文字の区別があります。したがって、`vmware-view` を使用してください。

重要 すべての部分で、非 ASCII 文字は UTF-8 [STD63] に基づいて最初にエンコードされる必要があり、次に対応する UTF-8 シーケンスの各オクテットは、URI 文字として表されるパーセントでエンコードされる必要があります。

ASCII 文字のエンコードについての詳細は、http://www.w3schools.com/tags/ref_urlencode.asp の URL エンコーディング資料を参照してください。

<authority-part>

サーバアドレス、オプションでユーザー名、非デフォルト ポート番号、またはその両方を指定します。サーバ名は、DNS 構文に一致する必要があります。

ユーザー名を指定するには、以下の構文を使用します:

```
user1@<server-address>
```

ドメインが含まれる UPN アドレスを指定できません。ドメインを指定するには、URI で `domainName` クエリ部分を使用できます。

ポート番号を指定するには、以下の構文を使用します:

```
<server-address>:<port-number>
```

<path-part>

デスクトップを指定します。デスクトップ表示名を使用します。表示名にスペースが含まれている場合、**%20** エンコーディング機能を使用してスペースを表します。

<query-part>

使用するための設定オプション、または実行するデスクトップアクションを指定します。クエリは大文字と小文字の区別がありません。複数のクエリを使用するには、クエリの間にアンパサンド (&) を使用します。クエリが違いに競合する場合、リストの最後のクエリが使用されます。次の構文を使用します:

```
<query1>=<value1> [&<query2>=<value2>...]
```

サポートされるクエリ

このトピックは、View Client のこのタイプでサポートされるクエリをリストします。デスクトップクライアントやモバイルクライアントなどの複数のクライアントタイプ用に URI を作成する場合は、クライアントシステムの各タイプの『VMware View Client の使用』を参照してください。

アクション

表 4-1. アクション クエリで使用できる値

値	説明
参照	指定したサーバにホストされている使用可能なデスクトップのリストを表示します。このアクションを使用している場合、デスクトップを指定する必要はありません。
スタート セッション	指定したデスクトップを起動します。アクションクエリが提供されず、デスクトップ名が提供されなければ、 スタート セッション がデフォルトアクションとなります。

表 4-1. アクション クエリで使用できる値 (続き)

値	説明
リセット	指定したデスクトップをシャットダウンして再起動します。保存されていないデータは失われます。View デスクトップのリセットは、物理 PC のリセット ボタンを押すのと同じです。
ログオフ	View デスクトップのゲスト OS からユーザーがログオフします。
ロールバック	Windows PC またはノートパソコンのローカル モードを使用するためにチェックアウト中に、指定したデスクトップに行った変更を取り消します。

connectUSBOnInsert デバイスに接続した時に前面のデスクトップに USB デバイスを接続します。このクエリは、**unattended** クエリを指定している場合に暗黙的に設定されます。このクエリを使用するには、**action** クエリを **start-session** に設定する必要があります。さもないと、**action** クエリを設定しません。有効な値は、**Yes** および **No** です。構文の例は、**connectUSBOnInsert=yes** です。

connectUSBOnStartup すべての USB デバイスをクライアント システムに現在接続されているデスクトップにリダイレクトします。このクエリは、**unattended** クエリを指定している場合に暗黙的に設定されます。このクエリを使用するには、**action** クエリを **start-session** に設定する必要があります。さもないと、**action** クエリを設定しません。有効な値は、**Yes** および **No** です。構文の例は、**connectUSBOnStartup=yes** です。

desktopLayout View デスクトップを表示するウィンドウのサイズを設定します。このクエリを使用するには、**action** クエリを **start-session** に設定する必要があります。さもないと、**action** クエリを設定しません。

表 4-2. desktopLayout クエリの有効値

値	説明
fullscreen	1 台のモニターでフル画面。これはデフォルトです。
multimonitor	すべてのモニターでフル画面。
windowLarge	大きなウィンドウ。
windowSmall	小さなウィンドウ。
<W>x<H>	カスタム解像度で、幅と高さをピクセルで指定します。構文の例は、 desktopLayout=1280x800 です。

desktopProtocol 有効な値は、**RDP** および **PCoIP** です。たとえば、PCoIP を指定するには、**desktopProtocol=PCoIP** 構文を使用します。

domainName View デスクトップに接続しているユーザーに関連づけられるドメイン。

loginAsCurrentUser **true** に設定すると、クライアント システムにログイン時にエンド ユーザーが提供する認証情報を使用して、View 接続サーバ インスタンスそして最終的には View デスクトップにログインします。有効な値は、**true** および **false** です。

tokenUserName RSA または RADIUS ユーザー名を指定します。RSA または RADIUS ユーザー名が Active Directory ユーザー名と異なる場合に限りこのクエリを使用します。このクエリを指定せず、RSA または RADIUS 認証が必要である場合、Windows ユーザー名が使用されます。この構文は、**tokenUserName=<name>** です。

unattended サーバ接続をキオスク モードで作成します。このクエリを使用する場合、ユーザー情報を指定しないでください。

vmware-view URI の例

vmware-view URI スキームでハイパーテキスト リンクまたはボタンを作成し、電子メールや Web ページにこれらのリンクを含めることができます。エンド ユーザーがこれらのリンク先をクリックして、たとえば、指定する起動オプションで特定の View デスクトップを起動できます。

URI 構文の例

各 URI 例は、URI リンクをクリック後にエンド ユーザーに表示される説明に続きます。

1 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザーにユーザー名、ドメイン名、およびパスワード入力を求めます。ログインが成功すれば、クライアントは [プライマリ デスクトップ] と表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

注意 デフォルトの表示プロトコルおよびウィンドウ サイズが使用されます。デフォルトの表示プロトコルは PCoIP です。デフォルトのウィンドウ サイズはフル画面です。

2 vmware-view://view.mycompany.com:7555/Primary%20Desktop

この URI は、View View 接続サーバに 7555 の非デフォルト ポートを使用することを除いて以前の例と同じ効果を持ちます。(デフォルト ポートは 443 です。)デスクトップ ID が提供されているので、デスクトップは **start-session** アクションが URI に含まれていなくとも起動されます。

3 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?desktopProtocol=PcoIP

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスが [fred] という名前を設定されます。ユーザーはドメイン名とパスワードを入力する必要があります。ログインが成功すれば、クライアントは [ファイナンス デスクトップ] と表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。この接続では PCoIP 表示プロトコルが使用されます。

4 vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?domainName=mycompany

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスが [fred] という名前を設定され、[ドメイン] テキスト ボックスは [mycompany] で設定されます。ユーザーはパスワードだけ入力する必要があります。ログインが成功すれば、クライアントは [ファイナンス デスクトップ] と表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

5 vmware-view://view.mycompany.com/

View Client が起動され、ユーザーは **view.mycompany.com** サーバに接続するためのログイン入力が求められます。

6 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=reset

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザーにユーザー名、ドメイン名、およびパスワード入力を求めます。ログインが成功すれば、View Client はダイアログ ボックスを表示して、プライマリ デスクトップのリセット操作の確認をユーザーに求めます。リセットが行われると、View Client のタイプに基づいて、ユーザーにリセットが成功したかどうかを示すメッセージが表示されます。

注意 このアクションは、View 管理者がエンド ユーザーにこの機能を有効にしている場合に限って使用されます。

7 vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session&connectUSBOnStartup=true

この URI は最初の例と同じ効果を持ち、クライアント システムに接続されているすべての USB デバイスは、View デスクトップにリダイレクトされます。

8 vmware-view://

View Client が起動され、View 接続サーバ インスタンスのアドレスを入力するためのページに入ります。

HTML コードの例

URI を使用して、ハイパーテキスト リンクおよびボタンを電子メールまたは Web ページに組み込むことができます。以下の例は、最初の URI の例から URI を使用して [Test Link] というハイパー リンクおよび [TestButton] というボタンをコーディングする方法です。

```
<html>
<body>

<a href="vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session">Text Link</a><br>

<form><input type="button" value="TestButton" onClick="window.location.href='vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session'"></form>
<br>

</body>
</html>
```

エンドユーザーの証明書確認の構成

たとえば、完全検証を常に実行するように、管理者は証明書検証モードを構成することができます。

証明書確認は、View 接続サーバと View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。管理者は検証モードを構成して、以下のいずれかの戦略を使用することができます：

- エンド ユーザーは検証モードの選択を許可されています。この一覧の残りでは、3 種類の検証モードについて説明します。
- (検証なし) 証明書の確認は実行されません。
- (警告) 自己署名証明書がサーバによって提出された場合、エンド ユーザーは警告を受けます。ユーザーはこの種類の接続を許可するか、しないかを選択できます。
- (フル セキュリティ) 完全な検証を実行し、完全検証に合格しない接続は拒否されます。

各検証確認の詳細については、[\[View Client の証明書チェック モード \(P. 28\)\]](#) を参照してください。

検証モードを設定するには、Client Configuration ADM テンプレートファイルを使用します。View コンポーネント用の ADM テンプレート ファイルは、View 接続サーバホストの <インストール ディレクトリ>\u165 \u165 \u165 { ディレクトリにインストールされます。これらのテンプレートを使用して GPO 設定を制御する情報については、『VMware View の管理』マニュアルを参照してください。

この設定をグループ ポリシーとして構成したくないときは、クライアント コンピュータの次のレジストリ キーに CertCheckMode 値の名前を追加することでも、証明書検証を有効にすることができます。

- 32 ビット Windows の場合：HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\Security
- 64 ビット Windows の場合：HKLM\SOFTWARE\Wow6432Node\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\Security

レジストリ キーでは次の値を使用します。

- **0** は サーバ ID 証明書を検証しないを実装します。
- **1** は、信頼されていないサーバに接続する前に警告するを実装します。
- **2** は、信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しないを実装します。

グループ ポリシー設定とレジストリ キーの CertCheckMode 設定の両方を構成すると、グループ ポリシー設定の方がレジストリ キーでの設定よりも優先されます。

View Client の証明書チェック モード

管理者は、またときにはエンド ユーザーは、サーバの証明書チェックが失敗した場合にクライアント接続を拒否するかどうかを設定できます。

証明書確認は、View 接続サーバと View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。証明書検査では、次のような検査が行われます。

- 証明書は失効しているか。証明書が失効しているかどうかを判断することは可能か。
- 証明書の目的は、送信側の ID 検証やサーバ通信の暗号化以外にあるか。つまり、証明書のタイプは正しいか。
- 証明書は期限切れになっているか、また有効なのは未来のみか。つまり、証明書はコンピュータの時刻に応じて有効になっているか。
- 証明書上の共通名は、それを送信するサーバのホスト名と一致しているか。ロード バランサが View Client をあるサーバにリダイレクトする際に、証明書が View Client に入力したホスト名と一致しない場合、不一致が発生する可能性があります。クライアントにホスト名ではなく IP アドレスを入力した場合でも、不一致の原因となる可能性があります。
- 不明なまたは信頼されていない証明機関 (CA) によって署名された証明書か。自己署名された証明書は、信頼されていない CA の証明書タイプの 1 つです。

チェックをパスするには、証明書のトラスト チェーンが、デバイスのローカル証明書ストアでルートになっている必要があります。

注意 ドメイン内のすべての Windows クライアントシステムに自己署名付ルート証明書を配布する手順については、『VMware View インストール ガイド』の「信頼されたルート証明機関へのルート証明書の追加」というトピックを参照してください。

デスクトップへのログインに View Client を使用していて、管理者の許可を受けている場合には、[SSL の構成] をクリックすると証明書チェック モードを設定できます。選択肢は次の 3 つです。

- [信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しない]。証明書の確認に失敗した場合、クライアントはサーバに接続できなくなります。失敗したチェックは、エラー メッセージに一覧表示されます。
- [信頼されていないサーバに接続する前に警告する]。サーバが自己署名証明書を使用していることが原因で、証明書の確認に失敗した場合、[続行] をクリックして警告を無視することができます。自己署名証明書の場合、証明書名は View Client に入力した View 接続サーバ名と一致する必要はありません。

証明書が期限切れの場合でも、警告を受信します。

- [サーバ ID 証明書を検証しない]。この設定は、証明書チェックは View によって一切実行されないことを意味します。

証明書確認モードが [警告] に設定されている場合でも、自己署名証明書を使用する View 接続サーバ インスタンスに接続することができます。

後で管理者が信頼される証明機関からのセキュリティ証明書をインストールし、接続時のすべての証明書チェックにパスするようになると、この信頼された接続はその特定のサーバに対して記録されます。その後、このサーバが自己署名証明書を再び提示すると、接続は失敗します。特定のサーバが完全に検証可能な証明書を提示した後は、必ずその処理が行われます。

重要 チェックアウトした View デスクトップをローカル システム上で使用する場合、企業ネットワークに接続していると、View デスクトップにログインしたタイミングで上記のように証明書チェックが実行されます。企業ネットワークに接続していない場合には、証明書チェックは実行できません。View デスクトップは、証明書チェックが成功したかのように実行されます。

コマンドラインからの View Client の実行

コマンドラインまたはスクリプトから Windows 用 View Client を実行できます。エンドユーザーによるデスクトップアプリケーションへのアクセスを許可する、キオスクベースのアプリケーションを実装している場合にこれらの起動方法を利用できます。

Windows 用 View Client をコマンドラインから実行するには、**wswc** コマンドを使用します。このコマンドにオプションを指定することで View Client の動作を変更できます。

View Client コマンドの使用方法

wswc コマンドの構文によって、View Client の動作が制御されます。

Windows コマンド プロンプトで、次の形式の **wswc** コマンドを使用します。

```
wswc [<command_line_option> [<argument>]] ...
```

デフォルトでは、**wswc** コマンドの実行可能ファイルのパスは **C:\Program Files\VMware\VMware View\Client\bin** です。このパスを <PATH> 環境変数に追加しておくくと便利です。

表 4-3 に、**wswc** コマンドで使用できるコマンドライン オプションを示します。

表 4-3. View Client コマンドライン オプション

オプション	説明
/?	コマンド オプションの一覧を表示します。
-checkin	(Local Desktop のみ) 指定されたデスクトップをチェックインし、対応するオンラインのデスクトップのロックを解除します。 このオプションを使用する場合、 -desktopName オプションも指定する必要があります。
-checkout	(Local Desktop のみ) 指定されたデスクトップをチェックアウトし、対応するオンラインのデスクトップをロックします。 このオプションを使用する場合、 -desktopName オプションも指定する必要があります。
-confirmRollback	(Local Desktop のみ) -rollback オプションの使用時に表示される確認ダイアログ ボックスを非表示にします。非対話モードでロールバックを実行するには、 -nonInteractive オプションも指定します。
-connectUSBOnStartup	true に設定すると、現在ホストに接続しているすべての USB デバイスをデスクトップにリダイレクトします。 -unattended オプションを指定すると、このオプションが暗黙のうちに設定されます。デフォルトは、 false です。
-connectUSBOnInsert	true に設定すると、USB デバイスを物理的に接続したときに、そのデバイスをフォアグラウンド デスクトップに接続します。 -unattended オプションを指定すると、このオプションが暗黙のうちに設定されます。デフォルトは、 false です。
-desktopLayout <window_size>	デスクトップのウィンドウの表示方法を指定します。 fullscreen フル スクリーン表示 multimonitor 複数モニタ表示 windowLarge 大きいウィンドウ windowSmall 小さいウィンドウ
-desktopName <desktop_name>	[Select Desktop (デスクトップの選択)] ダイアログ ボックスに表示されるデスクトップの名前を指定します。これは、デスクトップの選択ダイアログで表示される名前です。
-desktopProtocol <protocol>	使用するデスクトップ プロトコルとして [Select Desktop (デスクトップの選択)] ダイアログ ボックスに表示されるものを指定します。プロトコルは、PCOIP または RDP です。

表 4-3. View Client コマンドライン オプション (続き)

オプション	説明
<code>-domainName <domain_name></code>	View Client にログインするためにエンド ユーザーが使用するドメインを指定します。
<code>-file <file_path></code>	追加のコマンド オプションおよび引数を記述した構成ファイルのパスを指定します。以下を参照してください。[View Client 構成ファイル (P. 31)]。
<code>-languageId <Locale_ID></code>	View Client をさまざまな言語で使用するための各国語化サポートを提供します。リソース ライブラリが利用可能な場合は、使用するロケール ID (LCID) を指定します。英語 (米国) の場合は、値 <code>0x409</code> を入力します。
<code>-localDirectory <directory_path></code>	(Local Desktop のみ) ローカル デスクトップのダウンロードに使用するローカル システム上のディレクトリを指定します。ダウンロードされたローカル ファイルは、指定されたディレクトリに直接保存されます。一方、ローカル ディレクトリが View Client で選択されると、デスクトップ名のついたサブフォルダが選択されたディレクトリ下に作成され、ローカル ファイルはこのサブフォルダに保存されます。 このオプションを使用する場合、 <code>-desktopName</code> オプションも指定する必要があります。
<code>-logInAsCurrentUser</code>	<code>true</code> に設定すると、クライアントシステムにログインするときにエンド ユーザーが入力する認証情報を使用して View 接続サーバインスタンスにログインし、最終的に View デスクトップにログインします。デフォルトは、 <code>false</code> です。
<code>-nonInteractive</code>	View Client をスクリプトから起動するときにエラー メッセージ ボックスを非表示にします。 <code>-unattended</code> オプションを指定すると、このオプションが暗黙のうちに設定されます。
<code>-password <パスワード></code>	View Client にログインするためにエンド ユーザーが使用するパスワードを指定します。キオスク モードのクライアントでパスワードを自動生成する場合は、このオプションを指定する必要はありません。
<code>-printEnvironmentInfo</code>	クライアント デバイスの IP アドレス、MAC アドレス、およびマシン名を表示します。
<code>-rollback</code>	(Local Desktop のみ) チェックアウトしたデスクトップのオンラインバージョンのロックを解除し、ローカル セッションを破棄します。 このオプションを使用する場合、 <code>-desktopName</code> オプションも指定する必要があります。 非対話モードでロールバックを実行するには、 <code>-nonInteractive</code> オプションと <code>-confirmRollback</code> オプションも指定します。
<code>-serverURL <connection_server></code>	View 接続サーバインスタンスの URL、IP アドレス、または FQDN を指定します。
<code>-smartCardPIN <PIN></code>	エンド ユーザーがスマート カードを挿入してログインするときの PIN を指定します。
<code>-unattended</code>	キオスク モードのクライアントに適した非対話モードで View Client を実行します。次の値も指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ クライアント デバイスの MAC アドレスからアカウント名を生成しなかった場合は、クライアントのアカウント名。名前は、文字列「custom-」、または ADAM で定義した別のプレフィックス文字列で始まる必要があります。 ■ パスワードを自動生成しないようにクライアントのアカウントを設定した場合は、クライアントのパスワード。 <code>-unattended</code> オプションを指定すると、 <code>-nonInteractive</code> 、 <code>-connectUSBOnStartup</code> 、および <code>-connectUSBOnInsert</code> の各オプションも暗黙のうちに設定されます。
<code>-userName <ユーザー名></code>	View Client にログインするためにエンド ユーザーが使用するアカウント名を指定します。キオスク モードのクライアントでクライアント デバイスの MAC アドレスからアカウント名を生成する場合は、このオプションを指定する必要はありません。

コマンドラインまたは構成ファイルで指定するオプションは定義済みのグローバル システム ポリシーよりも優先され、定義済みのグローバル システム ポリシーはユーザー ポリシーよりも優先されます。

`-checkin`、`-checkout`、`-file`、`-languageId`、`-localDirectory`、`-printEnvironmentInfo`、`-rollback`、`-smartCardPIN`、および `-unattended` を除くすべてのオプションを、Active Directory グループ ポリシーによって指定できます。

View Client 構成ファイル

View Client のコマンド ライン オプションを構成ファイルから読み取ることができます。

You can specify the path of the configuration file as an argument to the `-f` option of the `wswc` command. ファイルは Unicode (UTF-16) または ASCII テキスト ファイルである必要があります。

例: 非対話型アプリケーション用の構成ファイルの例

次の例は、非対話型アプリケーション用の構成ファイルの内容を示します。

```
-serverURL https://view.yourcompany.com
-userName autouser
-password auto123
-domainName companydomain
-desktopName autodesktop
-nonInteractive
```

例: キオスク モードのクライアント用の構成ファイルの例

次の例は、デバイスの MAC アドレスに基づいたアカウント名を持つキオスク モードのクライアント用の構成ファイルを示します。このクライアントは自動生成パスワードを使用します。

```
-serverURL 145.124.24.100
-unattended
```

View Client のレジストリ設定

View Client のデフォルト設定は、コマンド ラインで指定する代わりに Windows レジストリで定義できます。

表 4-4 shows the registry settings for View Client. All the settings are located under `HKLM\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\` in the registry.

レジストリでの設定よりもポリシーの定義が優先され、ポリシーの定義よりもコマンド ラインでの設定が優先されます。

表 4-4. View Client のレジストリ設定

レジストリ設定	説明
DomainName	デフォルトのドメイン名を指定します。
EnableShade	View Client ウィンドウの最上部のメニュー バー (シェード) が有効かどうかを指定します。メニュー バーは、キオスク モードのクライアントを除き、デフォルトで有効です。値 <code>false</code> はメニュー バーを無効にします。
Password	デフォルトのパスワードを指定します。
ServerURL	デフォルトの View 接続サーバー インスタンスをその URL、IP アドレス、または FQDN によって指定します。
UserName	デフォルトのユーザー名を指定します。

View Client の終了コード

View Client のコマンドライン インターフェースは、View Client で発生したエラーの性質を示す終了コードを返すことがあります。

表 4-5 に、`wswc` コマンドが返す可能性がある終了コードを示します。

表 4-5. View Client の終了コード

終了コード	説明
-1	キオスク モードでの致命的エラーです。
0	成功しました。
1	接続に失敗しました。
2	ログインに失敗しました。
3	デスクトップを起動できませんでした。
4	RDP を起動できませんでした。
5	RDP 操作に失敗しました。
6	トンネル接続が失われました。
7	ローカル デスクトップの転送に失敗しました。
8	ローカル デスクトップのチェックインに失敗しました。
9	ローカル デスクトップのチェックアウトに失敗しました。
10	ローカル デスクトップのロールバックに失敗しました。
11	認証中に不明な結果を受信しました。
12	認証エラーです。
13	不明な認証方式の使用要求を受信しました。
14	無効なサーバ応答です。
15	デスクトップが切断されました。
16	トンネルが切断されました。
17	将来の開発のために予約済みです。
18	将来の開発のために予約済みです。
19	サポートされていないキオスク操作です。
20	リモート マウス、キーボード、または画面 (RMKS) 接続エラーです。
21	PIN エラーです。
22	PIN が一致しません。
23	パスワードが一致しません。
24	View 接続サーバ エラーです。
25	デスクトップを使用できませんでした。

サーバ接続とデスクトップの管理

View Client を使用して View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続し、View デスクトップにログインするか View デスクトップからログオフします。トラブルシューティングする場合にも、割り当てられている View デスクトップをリセットし、チェックアウトしたデスクトップをロールバックできます。

管理者による View デスクトップのポリシーの構成方法によっては、エンド ユーザーはデスクトップで多くの操作を実行できるようになります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View デスクトップへのログイン \(P. 33\)](#)
- [デスクトップの切り替え \(P. 35\)](#)
- [デスクトップからのログオフまたは切断 \(P. 36\)](#)

View デスクトップへのログイン

エンド ユーザーが仮想デスクトップにアクセスする前に、クライアント デバイスから仮想デスクトップにログインできることをテストします。[Start (スタート)] メニューから、またはクライアントシステムのデスクトップショートカットから、View Client を起動できます。

ネットワーク接続が利用できる環境では、ユーザー セッションは View 接続サーバによって認証されます。

開始する前に

- ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスワード、スマートカード個人識別番号 (PIN) などのログインに必要な認証情報を取得します。
- ログイン用のドメイン名を取得します。
- 管理タスクの実行については以下で説明しています。[[View Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 12\)](#)]。
- 社内ネットワークの外部から接続し、仮想デスクトップへのアクセスにセキュリティ サーバを使用していない場合、使用しているクライアント デバイスが VPN 接続を使用していることを確認し、この接続をオンにします。

重要 VMware では、VPN よりもセキュリティ サーバの使用を推奨しています。

- 仮想デスクトップへのアクセスを提供する サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を用意していることを確認してください。ポート番号が 443 ではない場合は、ポート番号も必要です。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップの接続を計画している場合は、AllowDirectRDP View Agent グループ ポリシーが有効であることを確認してください。
- 管理者の許可を受けている場合は、View 接続サーバから提示される SSL 証明書の証明書確認モードを構成することができます。

使用するモードを決定するには、以下を参照してください。[[View Client の証明書チェック モード \(P. 28\)](#)]。

手順

- 1 [VMware View Client] デスクトップショートカットをダブルクリックするか、[Start (スタート)] - [Program (プログラム)] - [VMware] - [VMware View Client] をクリックします。
- 2 [Connection Server (接続サーバ)] ドロップダウンメニューで、View 接続サーバまたはセキュリティサーバのホスト名を入力します。
- 3 ダイアログボックスの他のオプション設定が構成したとおりに表示されることを確認します。

オプション	説明
Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)	このチェックボックスは、View 管理者でのグローバル設定に従って表示または非表示になります。ローカルモードで使用するために View デスクトップをチェックアウトする場合は、このチェックボックスを選択しないでください。
ポート	このフィールドを空白のままにすると、デフォルトのポート 443 が使用されます。
自動接続	このチェックボックスを選択した場合、次に View Client を起動すると [Connection Server (接続サーバ)] フィールドが無効になり、[Autoconnect (自動接続)] チェックボックスを選択したときに指定したサーバに接続されます。このチェックボックスの選択を解除するには、次に表示されるダイアログボックスをキャンセルし、[Options (オプション)] をクリックしてこの設定を表示し、変更します。
SSL の構成	View 管理者の許可を受けている場合には、この手順の前提条件で説明したように、このリンクをクリックすれば、証明書検証チェックのモードを設定することができます。

- 4 [接続] をクリックします。
ログインダイアログボックスが表示される前に、確認が必要なメッセージが表示されます。
- 5 RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書の入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [続行] をクリックします。
- 6 少なくとも 1 つのデスクトッププールを使用する資格を付与されたユーザーの認証情報を入力し、ドメインを選択して [Login (ログイン)] をクリックします。
ユーザー名を **user@domain** という形式で入力すると、@ 記号があるために名前がユーザープリンシパル名 (UPN) として扱われ、ドメインドロップダウンメニューは無効になります。
デスクトッププールの作成およびユーザーに対するプールの資格付与については、『VMware View 管理』ドキュメントを参照してください。
- 7 表示されるデスクトップの一覧の中から、デスクトップを選択します。
 - a (オプション) [Display (ディスプレイ)] ドロップダウンメニューで、View デスクトップを表示するためのウィンドウサイズを選択します。
選択した表示設定はデフォルト設定として保存され、次にデスクトップを開いたときに使用されます。
 - b (オプション) 表示プロトコルを選択するには、リスト内でデスクトップの隣の下矢印をクリックし、[Display Protocol (プロトコルの表示)] をクリックし、プロトコルを選択します。
この選択は、View 管理者が選択を有効にしている場合にのみ可能です。PCoIP は、画像、オーディオ、ビデオなどのコンテンツを LAN または WAN 経由で配信して PC 上でスムーズに再生する目的に最適化されています。

注意 スマートカードの認証情報を使用してログインしている場合、プロトコルを切り替えるには、いったんログオフしてから再びログオンする必要があります。

選択したプロトコル設定はデフォルト設定として保存され、次にデスクトップを開いたときに使用されます。
- 8 [接続] をクリックします。
デスクトップに接続されます。

接続した後、クライアントウィンドウが表示されます。

View 接続サーバへの認証が失敗する場合、または View Client がデスクトップに接続できない場合は、次の手順を実行します。

- View 接続サーバが SSL を使用しないように構成するかどうかを決定します。View Client は、SSL 接続を必要とします。View 管理者 のグローバル設定で、[クライアント接続に SSL を使用する] チェック ボックスが選択されていないかどうかを確認します。このチェック ボックスが選択されていない場合、チェック ボックスを選択して SSL を使用する必要があります。または、HTTPS が有効なロード バランサや View 接続サーバへの HTTP 接続を作成するように構成されている他の中間デバイスにクライアントが接続できるように環境をセットアップする必要があります。
- View 接続サーバ用のセキュリティ証明書が正常に動作していることを確認します。正常に動作していない場合は、View 管理者 で、デスクトップの View Agent が到達不能になり、転送サーバのステータスが準備未完了として表示される場合があります。これらは、証明書の問題によって発生する二次的な接続の問題の現象です。
- View 接続サーバインスタンスで設定されているタグがこのユーザーからの接続を許可していることを確認します。『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。
- ユーザーがこのデスクトップにアクセスする資格を付与されていることを確認します。『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップに接続している場合、クライアント コンピュータでリモート デスクトップ接続が許可されていることを確認します。

次に進む前に

- 起動オプションを構成します。

エンド ユーザーが View 接続サーバのホスト名を指定する必要があるようにする場合、または他の起動オプションを構成する場合は、View Client のコマンドライン オプションを使用してデスクトップ ショートカットを作成します。

以下を参照してください。[[コマンド ラインからの View Client の実行 \(P. 29\)](#)]。

- ローカル モードで使用できるデスクトップをチェックアウトします。

エンド ユーザーが特定のデスクトップをチェックアウトできるかどうかを確認するには、View Client with Local Mode のリストでそのデスクトップの隣の下矢印をクリックします。デスクトップをローカル モードで使用できる場合は、[Check out (チェックアウト)] オプションがショートカット メニューに表示されます。デスクトップにアクセスする資格がグループにある場合でも、そのデスクトップをチェックアウトするユーザーのみがデスクトップにアクセスできます。

デスクトップの切り替え

デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。

手順

- ◆ View デスクトップ メニュー バーから [オプション] - [デスクトップを切り替え] を選択し、表示するデスクトップを選択します。

オプション	操作
同じサーバの View デスクトップを選択する	デスクトップ名が一覧表示されない場合、[その他のデスクトップ] を選択して、デスクトップ選択一覧から別のデスクトップを選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	同じサーバ上に置きたくないデスクトップがある場合は、View Client を終了した後、再起動して、別のサーバに接続します。

デスクトップからのログオフまたは切断

ログオフせずに View デスクトップから切断すると、アプリケーションは開いたままになります。

View デスクトップに接続していないときに、最初に接続しなくてもログオフできます。この機能を使用すると、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [ログオフ] をクリックするのと同じ結果になります。

注意 Windows のキーの組み合わせ <Ctrl> + <Alt> + は、View デスクトップではサポートしていません。<Ctrl> + <Alt> + の代わりに、メニューバーから [デスクトップ] - [Ctrl+Alt+Del の送信] を選択することもできます。

あるいは、<Ctrl> + <Alt> + <Insert> を押します。

View デスクトップをローカル モードで使用している場合は、切断またはログオフの代わりに、「[ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド \(P. 46\)](#)」。

手順

- ログオフせずに切断する。

オプション	操作
View Client も終了する	ウィンドウの隅にある [閉じる] ボタンをクリックするか、メニューバーの [オプション] - [切断] を選択します。
同じサーバの異なる View デスクトップを選択する	[オプション] - [デスクトップを切り替え] をメニューバーで選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	View Client を終了して再起動し、異なるサーバに接続します。

注意 View 管理者は、切断された時点で自動的にログオフするようにデスクトップを設定できます。その場合、デスクトップで開いているプログラムは停止します。

- ログオフして切断する。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムでメニューバーから	Windows の [スタート] メニューを使用してログオフします。 [オプション] - [切断してログオフ] を選択します。 この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- View デスクトップに接続していない場合にログオフする。

この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- View Client を起動し、View デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバに接続し、認証情報を入力します。
- デスクトップ選択リストが表示されたら、デスクトップの隣の下矢印をクリックし、[ログオフ] を選択します。

View デスクトップの操作

VMware View は、エンド ユーザーが期待する、なじみのあるパーソナライズされたデスクトップ環境を提供します。エンド ユーザーは、各自のローカル コンピュータに接続された USB デバイスやその他のデバイスにアクセスしたり、ローカル コンピュータで検出できる任意のプリンタにドキュメントを送信したり、スマート カードで認証したり、複数のディスプレイ モニタを使用したりできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [機能サポート一覧 \(P. 37\)](#)
- [国際化 \(P. 38\)](#)
- [USB デバイスの接続 \(P. 39\)](#)
- [USB デバイス再起動時に再接続するためのクライアント構成 \(P. 40\)](#)
- [テキストとイメージのコピー アンド ペースト \(P. 41\)](#)
- [Adobe Flash の表示の制御 \(P. 42\)](#)
- [View デスクトップからの印刷 \(P. 42\)](#)

機能サポート一覧

RSA SecurID 認証、ロケーション ベースの印刷、および PCoIP プロトコルなどの多くの機能は、ほとんどのクライアント OS でサポートされています。この機能が View デスクトップ OS でサポートされているかどうかを考慮する必要があります。

エンド ユーザーにどの表示プロトコルと機能を使用できるようにするかを計画する場合、以下の情報を使用して、どのクライアント OS およびエージェント (View デスクトップ) OS がこの機能をサポートするかを判断します。

Windows Vista のエディションには、Windows Vista Home、Enterprise、Ultimate、および Business が含まれます。Windows 7 のエディションには、Home、Professional、Enterprise、および Ultimate が含まれます。Windows Terminal Server では、エディションは Standard Edition です。

表 6-1. View デスクトップの OS でサポートされる機能 (View Agent がインストールされている場合)

機能	Windows XP Pro SP3、32 ビット	Windows Vista SP1 および SP2、32 ビット	Windows 7 および SP1、32 ビットおよび 64 ビット	Windows 2008 SP2/2008 R2 および SP1 Terminal Server 64 ビット
USB アクセス	○	○	○	
RDP 表示プロトコル	○	○	○	○
PCoIP 表示プロトコル	○	○	○	
個人設定管理	○	○	○	
Wyse MMR	○	○		

表 6-1. View デスクトップの OS でサポートされる機能 (View Agent がインストールされている場合) (続き)

機能	Windows XP Pro SP3、32 ビット	Windows Vista SP1 および SP2、32 ビット	Windows 7 および SP1、32 ビットおよび 64 ビット	Windows 2008 SP2/2008 R2 および SP1 Terminal Server 64 ビット
ロケーション ベースの印刷	○	○	○	
仮想印刷	○	○	○	
スマート カード	○	○	○	○
RSA SecurID または RADIUS	○	○	○	N/A
シングル サインオン	○	○	○	○
複数のモニタ	○	○	○	RDP 7 付属
ローカル モード	○	○	○	

表 6-2. Windows クライアント用 VMware View で

機能	Windows XP	Windows Vista	Windows 7	Windows 8
USB アクセス	○	○	○	○
RDP 表示プロトコル	○	○	○	○
PCoIP 表示プロトコル	○	○	○	○
個人設定管理	○ (ローカル モード未使用)	○ (ローカル モード未使用)	○ (ローカル モード未使用)	○ (ローカル モード未使用)
Wyse MMR	○	○		
ロケーション ベースの印刷	○	○	○	○
仮想印刷	○	○	○	○
スマート カード	○	○	○	○
RSA SecurID または RADIUS	○	○	○	○
シングル サインオン	○	○	○	○
複数のモニタ	○	○	○	○
ローカル モード	○	○	○	○

各クライアント OS のどのエディションまたはサービス パックがサポートされるかについての詳細は、システム要件のトピックを参照してください。

上記の機能の詳細および制限事項については、『VMware View アーキテクチャ プランニング ガイド』を参照してください。

国際化

View Client のユーザー インターフェイスとドキュメントは、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体中国語、および韓国語で利用可能です。

USB デバイスの接続

View デスクトップからプリンタなどのローカルで接続された USB デバイスを使用できます。

一部のデバイスは、View デスクトップから接続せずにデフォルトで使用できます。これらのデバイスとのやりとりは、ネットワーク遅延のため低速になる場合があります。USB デバイスとやりとりすると、アプリケーションがフリーズしたようになる場合があります。大容量 USB ディスク ドライブは、デスクトップに表示されるまでに数分かかる場合があります。

Android ベースの Samsung 製スマートフォンやタブレットなどの MTP ドライバを使用するデバイスを接続する予定がある場合、USB デバイスを View デスクトップに自動接続するように View Client を設定する必要があります。そうしなければ、[USB デバイスの接続] メニュー項目を使用して USB デバイスを手動でリダイレクトしようとすると、デバイスを取り外して接続し直さない限りリダイレクトできません。

重要 この手続きは、USB デバイスを View デスクトップに自動接続するように構成するための View Client メニュー項目の使用方法を説明します。View Client のコマンドライン インターフェイスを使用するか、グループ ポリシを作成して自動接続を構成することもできます。

コマンドライン インターフェイスの詳細については、「[コマンドラインからの View Client の実行 \(P. 29\)](#)」を参照してください。グループ ポリシの作成についての詳細は、『VMware View 管理者』ドキュメントを参照してください。

開始する前に

- View 管理者は、View デスクトップの USB 機能を有効にする必要があります。

このタスクは、USB リダイレクトを許可するために、View Agent の [USB Redirection] コンポーネントのインストールとグループ ポリシの設定が含まれます。View Agent の USB コンポーネントのインストールについての詳細は、『VMware View 管理者ガイド』の仮想マシンの作成と準備についての章を参照してください。USB リダイレクトの構成ポリシーについての詳細は、and "Configuring Filter Policy Settings for USB Devices" in the 『VMware View 管理者ガイド』の「View Agent の USB 設定」、「View Client の USB 設定」、「コンポジット USB デバイスのデバイス分離ポリシー設定の構成」、および「USB デバイスのフィルタ ポリシ設定の構成」を参照してください。

- View Client のインストール時に、[USB リダイレクト] コンポーネントをインストールする必要があります。インストールでこのコンポーネントを含めなければ、インストーラを再実行して、コンポーネントを変更し、[USB リダイレクト] コンポーネントを含めます。

USB デバイスを View デスクトップに手動または自動で接続できます。

手順

- 手動で USB デバイスを View デスクトップに接続します。
 - a USB デバイスをローカル クライアント システムに接続します。
 - b [View Client] メニュー バーから [USB デバイスの接続] をクリックします。
 - c USB デバイスを選択します。

デバイスは手動でローカル システムから View デスクトップにリダイレクトされます。

- ローカル システムに接続された時に、USB デバイスが自動的に View デスクトップに接続するように View Client を構成します。

Android ベースの Samsung 製スマートフォンやタブレットなどの MTP ドライバを使用するデバイスを接続する予定がある場合、この自動接続機能を使用する必要があります。

- USB デバイスを接続する前に、View Client を起動して View デスクトップに接続します。
- [View Client] メニューバーから以下のように選択してください。[USB デバイスの接続] - [USB デバイスの自動接続]。
- USB デバイスを接続します。

デバイスは自動でローカル システムから View デスクトップにリダイレクトされます。

USB デバイスがデスクトップに表示されます。これには最大 20 秒かかります。デバイスをデスクトップに初めて接続すると、ドライバのインストールを求められる場合があります。

USB デバイスが数分経過してもデスクトップに表示されない場合、デバイスを切断してクライアント コンピュータに再接続してください。

次に進む前に

USB のリダイレクトで問題がある場合、『VMware View 管理者ガイド』の USB リダイレクトのトラブルシューティングについてのトピックを参照してください。

USB デバイス再起動時に再接続するためのクライアント構成

USB デバイスを View デスクトップに自動接続するように View Client を構成していない場合、時々再起動する特定のデバイスに再接続するように View Client を構成できます。このように構成しない場合、アップグレード中にデバイスが再起動すると、デバイスは View デスクトップではなくローカル システムに接続します。

スマートフォンまたはタブレットなどの USB デバイスを接続する予定の場合、つまり、OS のアップグレード中に自動的に再起動する場合、特定のデバイスを View デスクトップに再接続するように View Client を設定できます。このタスクを実行するには、クライアントの構成ファイルを編集します。

View Client の [USB デバイスを自動接続] オプションを使用する場合、クライアント システムに接続するすべてのデバイスは、View デスクトップにリダイレクトされます。すべてのデバイスを接続したくない場合、以下の手順に従って View Client を構成すると、特定の USB デバイスだけが自動的に再接続されます。

開始する前に

デバイスのベンダ ID (VID) および製品 ID (PID) の 16 進数フォーマットを決定します。詳細については、<http://kb.vmware.com/kb/1011600> の VMware KB の記事を参照してください。

手順

- 1 テキスト エディタを使用してクライアントの `config.ini` ファイルを開きます。

OS バージョン	ファイルパス
Windows 7	C:\ProgramData\VMware\VMware USB Arbitration Service\config.ini
Windows XP	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\VMware USB Arbitration Service\config.ini

- 2 特定のデバイスの `slow-reconnect` プロパティを設定します。

```
usb.quirks.device0 = "<vid>:<pid> slow-reconnect"
```

ここで、`<vid>:<pid>` は、デバイスのベンダ ID および製品 ID を 16 進数で表します。たとえば、以下の行は 2 台の USB デバイスにこのプロパティを設定します：

```
usb.quirks.device0 = "0x0529:0x0001 slow-reconnect"
usb.quirks.device0 = "0x0529:0x0001 slow-reconnect"
```

`usb.quirks.device<N>` デバイス プロパティを 0 から始まる順序で指定します。たとえば、行 `usb.quirks.device0` の後ろに `usb.quirks.device1` ではなく、`usb.quirks.device2` の行が続く場合、最初の行だけが読み込まれます。

スマートフォンおよびタブレットなどのデバイスが、ファームウェアまたは OS のアップグレードを受けると、デバイスは再起動され、それを管理する View デスクトップに接続するので、アップグレードが成功します。

テキストとイメージのコピー アンド ペースト

管理者がこの機能を有効にしていると、リモートの View デスクトップとクライアントシステムの間、または 2 つの View デスクトップの間で書式付きテキストやイメージをコピー アンド ペーストできます。制限事項がいくつか存在します。

PCoIP 表示プロトコルを使用し、View 5.x 以降の View デスクトップを使用している場合、View の管理者は、クライアントシステムから View デスクトップへ、または View デスクトップからクライアントシステムへのコピー アンド ペースト操作のみを許可するように設定できます。また、双方向のコピー アンド ペースト操作を許可したり、これらの操作を禁止したりすることもできます。

管理者は、View デスクトップの View Agent に関連するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) を使用して、コピー アンド ペーストの機能を構成できます。詳細については、『VMware View の管理』ドキュメントのポリシーの構成の章にある View PCoIP の一般的なセッション変数に関するトピックを参照してください。

サポートされているファイル形式は、テキスト、画像、RTF (リッチ テキスト フォーマット) です。コピー アンド ペーストの操作では、クリップボードに 1MB のデータを格納できます。書式付きテキストをコピーする場合、そのデータの一部はテキストで、一部は書式設定情報になります。たとえば、800KB のドキュメントをコピーするときには 1MB 以上のデータが使用される可能性があります。これは、200KB 以上の RTF データがクリップボードに格納されることが考えられるためです。

大量の書式付きテキストまたはテキストとイメージをコピーする場合、そのテキストとイメージをペーストしようとする、プレーン テキストの一部または全部は表示されますが、書式設定やイメージは表示されません。なぜなら、これらの 3 種類のデータは別々に保存されることがあるからです。たとえばイメージは、コピー元のドキュメントの種類に応じて、イメージまたは RTF データとして保存されます。

テキストおよび RTF データが 1MB 未満である場合には、書式付きテキストはペーストされます。RTF データは切り捨てできないのが一般的であるため、テキストと書式設定で 1MB 以上を使用する場合には、RTF データは破棄され、プレーン テキストがペーストされます。

1 回の操作で選択した書式付きテキストとイメージのすべてをペーストできない場合には、1 度に少しずつコピー アンド ペーストする必要があります。

View デスクトップとクライアント コンピュータのファイル システムの間では、ファイルのコピー アンド ペーストはできません。

Adobe Flash の表示の制御

View 管理者は、View デスクトップに表示する Adobe Flash コンテンツについて、コンピューティング リソースを消費しすぎないように設計されたレベルに設定できます。場合によっては、これらの設定によって再生品質が低下することがあります。デスクトップのマウス ポインタを使用し、View 管理者が指定した Adobe Flash 設定を上書きすることができます。

Adobe Flash の表示制御機能は、Windows 上の Internet Explorer セッション、および Adobe Flash バージョン 9 および 10 でのみ利用できます。Adobe Flash の表示品質を制御するには、Adobe Flash がフル スクリーン モードで実行されている必要があります。

手順

- 1 View デスクトップの Internet Explorer で、関連する Adobe Flash コンテンツを参照し、必要に応じて開始します。
View 管理者が構成した Adobe Flash 設定によっては、フレームが欠けたり、再生品質が低下したりすることがあります。
- 2 再生中に、マウス ポインタを Adobe Flash コンテンツに移動します。
カーソルが Adobe Flash コンテンツにある間は、表示品質が改善されます。
- 3 品質の向上を保つには、Adobe Flash コンテンツの中でダブルクリックします。

View デスクトップからの印刷

View デスクトップから、仮想プリンタ、またはクライアント コンピュータに接続された USB プリンタで印刷を実行できます。仮想印刷と USB 印刷は競合せずに連携して動作します。

Windows クライアント上で仮想印刷機能の印刷設定を指定する

仮想印刷機能を使用すると、View デスクトップに追加のプリンタ ドライバをインストールする必要なく、エンド ユーザーが View デスクトップからローカル プリンタまたはネットワーク プリンタを使用できます。この機能で使用可能なプリンタごとに、データ圧縮、印刷品質、両面印刷、カラーなどの環境設定ができます。

ローカル Windows コンピュータ上でプリンタを追加すると、View デスクトップで使用可能なプリンタのリストにもそのプリンタが追加されます。何も構成する必要はありません。その場合でも、管理者権限のあるユーザーは、仮想プリンタ コンポーネントとの競合をもたらすことなく View デスクトップにプリンタ ドライバをインストールできます。

重要 この機能は次の種類のプリンタには使用できません。

- USB リダイレクト機能を使用して View デスクトップの仮想 USB ポートに接続する USB プリンタ。
View デスクトップで仮想印刷機能を使用するには、View デスクトップから USB プリンタを切断する必要があります。
 - ファイルに印刷するための Windows 機能
[Print (印刷)] ダイアログボックスで [Print to file (ファイルへ出力)] を選択しても動作しません。ファイルを作成するプリンタ ドライバを使用すると動作します。たとえば、PDF ライターを使用すると PDF ファイルに出力できます。
-

開始する前に

View Agent の仮想印刷コンポーネントが View デスクトップにインストールされていることを確認します。View デスクトップ ファイル システムでは、ドライバは **C:\¥Files¥Files¥¥¥Printer** にあります。

View Agent のインストールは、仮想マシンを View デスクトップとして使用するための準備に必要な作業の 1 つです。詳細については、『VMware View の管理』を参照してください。

手順

- 1 View デスクトップで、次のメニューをクリックします。 [Start (スタート)] - [設定] - [Printers and Faxes (プリンタと FAX)]。
- 2 [Printers and Faxes (プリンタと FAX)] ウィンドウで、ローカルで使用できるプリンタを右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択します。

Windows 7 デスクトップでは、他のプリンタが使用できる場合でも、デフォルト プリンタしか表示されない場合があります。他のプリンタを表示するには、デフォルト プリンタを右クリックし、[Printer properties (プリンタのプロパティ)] をポイントします。

View デスクトップで、仮想プリンタは「<<プリンタ名>#:<番号>>」のように表示されます。
- 3 [Print Properties (印刷のプロパティ)] ウィンドウで、[ThinPrint Device Setup (ThinPrint デバイス設定)] タブをクリックし、使用する設定を指定します。
- 4 [General (一般)] タブで [Printing Preferences (印刷設定)] をクリックし、ページと色の設定を編集します。
- 5 [Advanced (詳細)] タブで、両面印刷および縦向き (長辺) 印刷または横向き (短辺) 印刷の設定を指定します。
- 6 ホスト上で印刷結果をプレビューするには、[Preview on client before printing (印刷前にクライアント上でプレビュー)] を有効にします。

このプレビューでは、さまざまなプロパティのプリンタを使用できます。
- 7 [Adjustment (調整)] タブで、自動印刷調整の設定を確認します。

デフォルト設定を変更しないことをお勧めします。
- 8 [OK] をクリックします。

USB プリンタの使用

View 環境では、仮想プリンタとリダイレクトされた USB プリンタが、競合することなく一緒に動作できます。

USB プリンタは、ローカル クライアント システムの USB ポートに接続されているプリンタです。印刷ジョブを USB プリンタに送信するには、USB リダイレクト機能または仮想印刷機能を使用できます。ネットワークの状況によっては、USB 印刷のほうが仮想印刷よりも高速なことがあります。

- 必要なドライバが View デスクトップにもインストールされている場合は、USB リダイレクト機能を使用して、USB プリンタを View デスクトップの仮想 USB ポートに接続できます。

このリダイレクト機能を使用すると、プリンタはクライアントの物理 USB ポートに接続されなくなります。仮想印刷機能で表示されるローカル プリンタの一覧に USB プリンタが含まれないのはこのためです。また、このために、View デスクトップからは USB プリンタに印刷できますが、ローカル クライアント マシンからは印刷できません。

View デスクトップで、USB プリンタは<<プリンタ名>>のように表示されます。

USB プリンタを接続する方法については、[「USB デバイスの接続 \(P. 39\)」](#)。

- Windows クライアントでは、代わりに仮想印刷機能を使用して印刷ジョブを USB プリンタに送信できます。仮想印刷機能を使用する場合は、View デスクトップとローカル クライアントの両方から USB プリンタに印刷でき、View デスクトップに印刷ドライバをインストールする必要はありません。

ローカル モードでのデスクトップの操作

ローカル モードの View デスクトップは、リモート デスクトップと同じように動作しますが、ローカル リソースを使用でき、ネットワーク接続は必要ありません。

View デスクトップをチェックアウトすると、デスクトップがクライアント コンピュータにダウンロードされ、ローカルで実行できるようになります。チェックアウトしている間に View デスクトップをサーバにバックアップし、ローカル デスクトップで行った変更内容を保存できます。

ローカル デスクトップを使用していないときは、デスクトップをシャットダウンまたはサスペンドできます。ローカル デスクトップの使用を終了したら、デスクトップをサーバにチェックインできます。または、デスクトップをロールバックして、実行した変更を破棄することもできます。

View Client with Local Mode の利点の詳細については、『VMware View アーキテクチャ プランニング ガイド』を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ローカル モード デスクトップの最初のチェックアウト \(P. 45\)](#)
- [ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド \(P. 46\)](#)
- [デスクトップのバックアップ \(P. 46\)](#)
- [デスクトップのチェックイン \(P. 47\)](#)
- [デスクトップのロールバック \(P. 47\)](#)
- [エンドポイント リソースの使用法の構成 \(P. 48\)](#)

ローカル モード デスクトップの最初のチェックアウト

エンド ユーザーが View デスクトップをローカル モードで使用するために最初にチェックアウトするとき、チェックアウトとダウンロードの処理はいくつかの段階を経て行われるため、それ以降のチェックアウト操作よりも時間がかかります。

エンド ユーザーが View Client にログインし、1 つ以上のデスクトップのリストが表示されたら、ユーザーはデスクトップに接続してからそのデスクトップをチェックアウトするか、最初にリモート接続せずにデスクトップをチェックアウトするかを選択できます。

重要 ログインしたときに [Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] 機能を使用した場合は、デスクトップをチェックアウトできません。View Client を閉じて再起動し、[Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] チェック ボックスをオフにします。

エンド ユーザーがデスクトップに接続してからそのデスクトップをチェックアウトする場合、ユーザーはリモート デスクトップからログオフされ、データセンター内の仮想マシンがロックされ、仮想マシンのコピーがエンド ユーザーにダウンロードされます。

ダウンロードの完了後、エンドユーザーがローカル デスクトップを最初にパワーオンした時点で、いくつかのドライバがローカル デスクトップにインストールされます。インストールされるドライバの種類は、View デスクトップのオペレーティングシステムや、ローカル コンピュータのハードウェアおよびオペレーティングシステムによって異なります。View デスクトップで Windows XP オペレーティングシステムを実行する場合は特に、ドライバのインストール中に View デスクトップのパフォーマンスが低下します。

ドライバのインストールが完了すると、エンドユーザーはローカル デスクトップの再起動を指示されます。

注意 ゲスト OS の起動またはシャットダウン中に View デスクトップ ウィンドウ内をクリックすると、ポインタがウィンドウ内に残ることがあります。起動が完了して VMware Tools が実行されると、ポインタは解放されます。ポインタがデスクトップ ウィンドウ内に捕捉されている場合は、<Ctrl> + <Alt> キーを押すとポインタを解放できます。

ローカルの View デスクトップが使用する RAM 容量と CPU の個数は、ローカル コンピュータの性能によって異なります。View デスクトップでは NAT を使用してローカル コンピュータの IP アドレスと MAC アドレスを共有します。詳細については、「[エンドポイント リソースの使用法の構成 \(P. 48\)](#)」を参照してください。

ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド

ローカル デスクトップを使用していないときは、デスクトップを閉じることができます。ローカル デスクトップをシャットダウンまたはサスペンドできます。

開始する前に

デスクトップでファイルを開いている場合は、それらを保存して閉じます。

手順

- ◆ View デスクトップの [オプション] メニューから、デスクトップを閉じる方法を選択します。

オプション	説明
サスペンドする	View Client を閉じる際に、すべての使用中プログラムを現在の状態で保存します。デスクトップに再接続すると、プログラムはサスペンドする前と同じ状態で再開します。 注意 デスクトップのサスペンドには、デスクトップのシャットダウンよりも時間がかかります。
ゲストのシャットダウン	View Client を閉じ、開いているすべてのプログラムを停止します。保存されていないデータは失われます。このオプションは、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [シャットダウン] をクリックするのと同じ結果になります。

タイトルバーの [閉じる] ボタンをクリックすると、View 管理者によるデスクトップの設定に応じて、デスクトップはサスペンドまたはシャットダウンされます。

デスクトップのバックアップ

デスクトップをサーバにバックアップし、ローカル デスクトップで行った変更内容を保存できます。

デスクトップをバックアップできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをバックアップします。

オプション	操作
View デスクトップから	システム トレイにある [VMware View] アイコンをダブルクリックしてバックアップ ダイアログ ボックスを開き、[バックアップを要求] をクリックします。
デスクトップ選択リストから	バックアップするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [バックアップを要求] を選択します。

進行中のバックアップを一時停止するには、[バックアップを延期] をクリックします。バックアップを一時停止できるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

一時停止したバックアップを再開するには、[延期したバックアップをレジューム] をクリックします。

バックアップの状態を表示するトースト通知を無効にするには、[VMware View] トレイ アイコンを右クリックして [バックアップ通知を無効にする] を選択します。

デスクトップのチェックイン

ローカル デスクトップの使用を終了したら、デスクトップをサーバにチェックインできます。

View デスクトップをチェックインできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

チェックイン中はデスクトップにアクセスできません。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをチェックインします。

オプション	操作
View デスクトップから	タイトル バーで、次のように選択します。[オプション] - [チェックイン]。
デスクトップ選択リストから	チェックインするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [チェックイン] を選択します。

進行中のチェックインを一時停止するには、[チェックインを一時停止] を選択します。一時停止したチェックインを再開するには、[チェックインを再開] を選択します。進行中のチェックインをキャンセルするには、[チェックインをキャンセル] を選択します。

デスクトップがサーバにチェックインされ、チェックアウトを許可されている他のユーザーがチェックアウトできるようになります。

デスクトップをチェックインしても、クライアント コンピュータのディスク ドライブからローカル デスクトップ ファイルが削除されることはありません。

デスクトップのロールバック

ローカル デスクトップをロールバックすると、デスクトップで実行した変更は破棄されます。最後のチェックアウトまたはサーバへのバックアップよりも後に更新されたすべてのデータは失われます。

デスクトップをロールバックできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

ロールバック中はデスクトップにアクセスできません。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをロールバックします。

オプション	操作
View デスクトップから	タイトルバーで、[オプション] - [ロールバック].
デスクトップ選択リストから	ロールバックするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [ロールバック] を選択します。

デスクトップはローカルでの動作を停止します。

デスクトップをロールバックしても、クライアント コンピュータのディスク ドライブからローカル デスクトップ ファイルが削除されることはありません。

エンドポイント リソースの使用方法の構成

デフォルトでは、ローカル システムで使用するためにチェックアウトされた View デスクトップは、そのホストのメモリおよび CPU の能力を利用します。デスクトップ上の仮想 NIC は、NAT を使用してホストの IP アドレスおよび MAC アドレスを共有します。このデフォルトの動作は変更できます。

メモリおよび CPU リソースのローカル使用量の上書き

ローカル デスクトップがチェックアウトされた後、そのデスクトップでは vCenter Server で仮想マシン用に指定されているメモリおよび CPU の設定に関係なく、ローカル システムのメモリおよび CPU の能力を利用できます。このデフォルトの動作は上書きできます。

デフォルトでは、ローカル モードで使用するためにチェックアウトされた View デスクトップに割り当てられる RAM の量は、クライアント ホスト上で利用可能な RAM の中の一定量に自動的に調整されます。

式では、ホストおよびゲストの View デスクトップ間で配分するために利用可能なメモリ容量が考慮されます。Windows XP オペレーティングシステムでは最低 512MB の RAM が必要です。32 ビットの Windows 7 または Windows Vista オペレーティングシステムでは最低 1GB の RAM が必要です。配分可能なメモリ容量は、ホスト上の RAM の合計容量から、ホスト OS とゲスト OS に最小限必要な RAM 容量を引いたものです。

表 7-2. ローカルの View デスクトップに割り当てられるメモリ

メモリ割り当て	Windows XP ゲスト	Windows 7 および Vista ゲスト
最小	512MB	1GB
ベスト エフォート	512MB + (利用可能量/2)	1GB + (利用可能量/2)
最大	2 GB	4GB

たとえば、Windows 7 ホストに合計 2GB の RAM がある場合、Windows 7 View デスクトップをローカルで実行するには 2GB の RAM が必要です (RAM のうち 1GB がホストに、1GB がローカルの View デスクトップに割り当てられます)。ホストに 3GB の RAM がある場合、RAM のうち 1.5GB がホストに、1.5GB がローカルの View デスクトップに割り当てられます。

注意 メモリ割り当ての自動調整によって、ローカル デスクトップのメモリ容量が、vCenter Server で構成される容量よりも低い値に設定されることはありません。

同様に、ローカルの View デスクトップでは、その View デスクトップで Windows Vista 以降のオペレーティングシステムが動作している場合、クライアント ホストで利用可能な最大 2 個の CPU を使用できます。

デフォルト値を変更したり、設定の範囲を指定したりできます。設定はクライアント上のすべてのローカル デスクトップに適用できます。設定によっては、ユーザーがクライアント上で使用する資格を持つ特定の View 接続サーバインスタンスの特定のデスクトップまたはすべてのデスクトップに適用できます。

これらのデフォルトを変更するには、Windows レジストリを設定を構成する必要があります。その後、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) などの標準の Windows ツールを使用して、それらのレジストリ設定を展開できます。

開始する前に

- ローカル デスクトップが使用できる CPU を一定の数に設定する予定の場合は、ローカル デスクトップをパワーオフします。
- 設定の範囲を指定できる場合が多いため、指定する必要がある識別子を調べます。

表 7-1. ローカル モードのリソース使用量に関するレジストリ設定で使用される識別子

範囲	変数名	説明
サーバ固有	<broker_guid >	View 接続サーバインスタンスまたはグループのグローバル意識別子。GUID を調べるには <code>vdmadmin -C</code> コマンドを使用します。
サーバおよびユーザー固有	<remote_user _sid>	エンド ユーザーのセキュリティ ID。View 接続サーバホスト上で ADSI Edit ユーティリティを使用して、[CN=<machine_CN>,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int] の [pae-SIDString] フィールドの値を確認します。
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	<desktop_ID >	View デスクトップの ID。View 接続サーバ上で ADSI Edit ユーティリティを使用します。ID は [DC=vdi,DC=vmware,DC=int] の [OU=Applications] にあります。デスクトップ ID は、デスクトップ プールの表示名を使用する識別名です： [CN=<pool_display_name>,OU=Applications,DC=vdi,DC=vmware,DC=int]

ブローカー GUID はクライアント コンピュータ上の `mvd1.lst` ファイルから探すこともできます。Windows XP では、ファイルの場所は `C:\Documents and Settings\\Local Settings\Application Data\VMware\VDM` フォルダです。ファイルを開き、`brokerGUID` を探します。リモート ユーザーのセキュリティ ID もこのファイルに含まれています。ファイルを開き、`user-sid` を探します。

手順

- vCenter Server で構成された量のメモリだけがローカル デスクトップで使用されるようにデフォルトの動作を上書きするには、次のいずれかのレジストリ キーを追加し、そのキーを 1 に設定する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\disableOfflineDesktopMemoryScaleup
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\disableOfflineDesktopMemoryScaleup</broker_guid>

値 1 は `disableOfflineDesktopMemoryScaleup` がオンであることを示し、値 0 はオフであることを示します。

- View デスクトップがローカルで実行されているときに使用できるメモリを一定の量に設定するには、32 GB までの数値をメガバイト単位で指定する次のいずれかのレジストリ キーを追加する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue
サーバ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue</broker_guid>

設定の範囲	パス
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlinedesktopdefaultmemoryscaleupvalue< td=""> </broker_guid>\<remote_user_sid>\offlinedesktopdefaultmemoryscaleupvalue<>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlinedesktopdefaultmemoryscaleupvalue< td=""> </broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlinedesktopdefaultmemoryscaleupvalue<>

この値を大きすぎる数値に設定すると、ローカル デスクトップがパワーオンせず、エラー メッセージが表示されます。

- クライアント ホストで利用可能な量よりも多くのメモリを必要とするように構成されたデスクトップをチェックアウトするには、次のレジストリ キーを追加する GPO を作成して展開します。このレジストリ キーでは、ローカル クライアントが示す利用可能なメガバイト数を指定します。

HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopReportedHostMemoryValue

この値に View デスクトップで必要とされるメモリ以上の値を設定すると、クライアントに仮想マシンを実行するための十分な予備メモリがあれば、View デスクトップをチェックアウトして実行できます。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopReportedHostMemoryValue
サーバ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\offlinedesktopreportedhostmemoryvalue< td=""> </broker_guid>\offlinedesktopreportedhostmemoryvalue<>
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlinedesktopreportedhostmemoryvalue< td=""> </broker_guid>\<remote_user_sid>\offlinedesktopreportedhostmemoryvalue<>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlinedesktopreportedhostmemoryvalue< td=""> </broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlinedesktopreportedhostmemoryvalue<>

クライアントに十分な予備メモリがない場合は、`offlineDesktopReportedHostMemoryValue` 設定とともに、`offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue` 設定を使用できます。

たとえば、クライアント システムに 2GB のメモリがあり、2GB のメモリを必要とするよう View デスクトップが構成されている場合は、クライアントがホストする仮想化でも一部のメモリが必要になるため、View デスクトップはチェックアウトできません。ただし、レジストリ設定 `offlineDesktopReportedHostMemoryValue = 2048` を使用すれば、デスクトップをチェックアウトできます。また、レジストリ設定 `offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue = 1024` を使用すれば、View デスクトップがローカルで実行されるときメモリを 1GB に制限できます。

- vCenter Server で構成された数の CPU だけがローカル デスクトップで使用されるようにデフォルトの動作を上書きするには、次のいずれかのレジストリ キーを追加し、そのキーを 1 に設定する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\disableOfflineDesktopCPUScaleup
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\disableofflinedesktopcpuscaleup< td=""> </broker_guid>\<remote_user_sid>\disableofflinedesktopcpuscaleup<>

値 1 は `disableOfflineDesktopCPUScaleup` がオンであることを示し、値 0 はオフであることを示します。

- View デスクトップがローカルで実行されているときに使用できる CPU を一定の数に設定するには、CPU 数（最大 2 個）を指定する次のいずれかのレジストリ キーを追加する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopDefaultCPUScaleupValue
サーバ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue</broker_guid>
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlineDesktopDefaultCPUScaleupValue</broker_guid>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_ID>\offlineDesktopDefaultCPUScaleupValue</broker_guid>

無効な値を指定すると、その値は無視され、デフォルト値が使用されます。ホスト上で利用可能な数よりも多い CPU 数を指定すると、ローカル デスクトップがパワーオンせず、エラー メッセージが表示されます。この値を 2 より大きい数に設定した場合は、値 2 が使用されます。

設定はローカル デスクトップがパワーオンされると有効になりますが、報告されるメモリの必要量が vCenter Server で設定されている量よりも少なくなることが許可される設定の場合は例外です。この設定は、デスクトップがチェックアウトされているときには読み取り専用になります。

NAT からブリッジへのネットワーク タイプの変更

デフォルトでは、ローカル システムで使用するためにデスクトップがチェックアウトされると、View デスクトップの仮想ネットワーク タイプが NAT（ネットワーク アドレス変換）に変更されます。この動作を上書きして、View デスクトップがネットワーク上で独自の ID を持つようにブリッジ ネットワークを使用することができます。

ブリッジ ネットワークでは、View デスクトップの仮想ネットワーク アダプタがホスト コンピュータの物理ネットワーク アダプタに接続されます。ブリッジ ネットワークを使用すると、View デスクトップがネットワーク上の他のコンピュータに対して可視になり、デスクトップに独自の IP アドレスが必要になります。

NAT では、仮想マシンがホストの IP アドレスと MAC アドレスを共有するように構成されます。View デスクトップとクライアント ホストが、ネットワーク上で単一の ID を共有します。

クライアント ホスト上のすべてのローカル デスクトップまたは特定のローカル デスクトップについてこれらのデフォルトを変更するには、Windows のレジストリ設定を構成する必要があります。その後、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) などの標準の Windows ツールを使用して、それらのレジストリ設定を展開できます。

開始する前に

- 設定の範囲を指定できる場合が多いため、指定する必要がある識別子を調べます。

表 7-3. ローカル モードのリソース使用量に関するレジストリ設定で使用される識別子

範囲	変数名	説明
サーバ固有	<broker_guid>	View 接続サーバインスタンスまたはグループのグローバル意識別子。GUID を調べるには <code>vdadmin -C</code> コマンドを使用します。
サーバおよびユーザー固有	<remote_user_sid>	エンド ユーザーのセキュリティ ID。View 接続サーバホスト上で ADSI Edit コーティリティを使用して、[CN=<machine_CN>,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int] の [pae-SIDString] フィールドの値を確認します。
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	<desktop_ID>	View デスクトップの ID。View 接続サーバ上で ADSI Edit コーティリティを使用します。ID は [DC=vdi,DC=vmware,DC=int] の [OU=Applications] にあります。デスクトップ ID は、デスクトップ プールの表示名を使用する識別名です： [CN=<pool_display_name>,OU=Applications,DC=vdi,DC=vmware,DC=int]

ブローカー GUID はクライアント コンピュータ上の `mvd1.lst` ファイルから探すこともできます。Windows XP では、ファイルの場所は `C:\Documents and Settings\\Local Settings\Application Data\VMware\VDM` フォルダです。ファイルを開き、`brokerGUID` を探します。リモート ユーザーのセキュリティ ID もこのファイルに含まれています。ファイルを開き、`user-sid` を探します。

手順

- ◆ ローカル デスクトップでブリッジ ネットワークが使用されるようにデフォルトの動作を上書きするには、GPO を作成および展開し、次のいずれかのレジストリ キーを追加して、そのキーを 1 に設定します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU¥¥, Inc.¥VDM¥¥
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlineDesktopUseBridgedNetworking</remote_user_sid></broker_guid>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlineDesktopUseBridgedNetworking</desktop_id></remote_user_sid></broker_guid>

値を 1 にすると、デスクトップでブリッジ ネットワークを使用するように設定されます。値を 0 にすると、NAT を使用するように設定されます (デフォルト)。

この設定は、エンド ユーザーがローカル デスクトップをパワーオンしたときに有効になります。

View Client のトラブルシューティング

View Client に関するほとんどの問題は、デスクトップのリセットまたは VMware View Client の再インストールで解決することができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Client が予期せずに終了する場合の対処 \(P. 53\)](#)
- [デスクトップのリセット \(P. 53\)](#)
- [View Client のアンインストール \(P. 54\)](#)

View Client が予期せずに終了する場合の対処

ユーザーが終わらせただけではないのに View Client が終了する場合があります。

問題

View Client が予期せずに終了する場合があります。View 接続サーバの構成によっては、「View 接続サーバ への安全な接続がありません」のようなメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されない場合もあります。

原因

この問題は、View 接続サーバへの接続が失われると発生します。

解決方法

- ◆ View Client を再起動します。View 接続サーバが再び実行するようになるとすぐに正常に接続できます。接続の問題が解決しない場合は、View 管理者へお問い合わせください。

デスクトップのリセット

リセット操作を実行すると、デスクトップがシャットダウンおよび再起動されます。保存されていないデータは失われます。

デスクトップオペレーティングシステムが応答しなくなった場合、デスクトップのリセットが必要となる場合があります。

View デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するためにその PC のリセット ボタンを押す操作に相当します。View デスクトップで開いているすべてのファイルが、保存されずに閉じられることとなります。

デスクトップをリセットできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

手順

- ◆ [デスクトップのリセット] コマンドを使用します。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムで	メニュー バーから [オプション] - [デスクトップのリセット] を選択します。
デスクトップ選択リストから	a View Client を起動し、View デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバに接続し、認証情報を入力します。 b デスクトップ選択リストが表示されたら、デスクトップの隣の下矢印をクリックし、[デスクトップのリセット] を選択します。

View デスクトップのオペレーティング システムが再起動されます。View Client がデスクトップから切断されます。

次に進む前に

システムが再起動するのを待ってから、View デスクトップへの接続を試行します。

View Client のアンインストール

View Client の問題を VMware View Client アプリケーションをアンインストールし、再インストールして解決できることがあります。

他のアプリケーションをアンインストールするのと同じ方法で、View Client をアンインストールします。

たとえば、Windows オペレーティング システムで使用できる [プログラムの追加または削除] アプレットを使用して、VMware View Client アプリケーションを削除します。

アンインストールが完了すると、アプリケーションを再インストールできます。

[第 3 章「Windows 版 View Client のインストール \(P. 13\)」](#) を参照してください。

インデックス

記号

UPN

View Client with Local Mode 33

View Client 33

View 接続サーバ 12

クライアント デバイスの前提条件 12

「現在のユーザーとしてログイン」機能 33

セキュリティ サーバ 12

A

Adobe Flash ビデオ、制御 42

C

CPU 要件、ローカル モード デスクトップ 9

Ctrl+Alt+Delete 36

Ctrl+Alt+Del メニューコマンド/ソウシン 36

+ キーによるマウスポインタの解放 45

F

Firefox、サポートされるバージョン 11

I

Internet Explorer、サポートされるバージョン 11

M

Microsoft RDP 37

Microsoft Windows インストーラ、サイレントインストールのコマンドラインオプション 21

Microsoft Windows Installer、View Client のプロパティ 19

N

NIC 51

P

PCoIP 37

S

SSL 証明書、検証する 27

T

ThinPrint のセットアップ 42

U

URI (uniform resource identifiers) 23

URI の例 26

USB デバイス、View デスクトップで使用 37

USB デバイスの自動接続 39

USB プリンタ 42, 43

V

View Agent、インストール要件 11

View Client

インストールの概要 13

起動 13, 33

View Portal を使用したインストール 15

View Portal を使用したダウンロード 16

Windows PC またはラップトップでのインストール 13

Windows PC またはラップトップでのサイレントインストール 17, 18

Windows 版のシステム要件 7

構成 23

構成ファイル 31

コマンドの構文 29

コマンドラインから実行 29

サイレントインストールのプロパティ 19

デスクトップから切断 36

トラブルシューティング 53

予期しない終了 53

レジストリ設定 31

View Client for Windows 5

View Client with Local Mode、サイレントインストールのグループポリシー 17

View Client のアンインストール 54

View Client 用の URI 構文 24

View Portal、ブラウザの要件 11

View コンポーネント、サイレントインストールのコマンドラインオプション 21

View デスクトップ

チェックイン 47

ロールバック 47

View デスクトップから切断 36

View デスクトップのチェックイン 47

View デスクトップのロールバック 47

W

Web ブラウザの要件 11

Windows、View Client のインストール 7

Windows 7 要件、ローカル モード デスクトップ 9

Windows コンピュータ、View Client のインストール 13

WSWC コマンド
構成ファイル 31
構文 29
終了コード 31
Wyse MMR 10, 37

い
イメージ、コピー 41

え
エンドポイント リソースの使用法、構成 48

お
オペレーティング システム、View Agent でサポート
されている 11

か
仮想印刷機能 37, 42
仮想プリンタ 42
仮想プロファイル 37

き
機能サポート一覧 37

く
クライアントのソフトウェア要件 7

こ
国際化 38

さ
サーバ証明書検証 27
サーバ接続 33
サイレント インストール
View Client 17, 18
View Client with Local Mode 18
インストールを許可するグループ ポリシー 17

し
システム要件、Windows 版 7
証明書、問題の無視 27, 28
証明書確認の検証モード 27
シンクライアントのサポート 37

す
スマート カード認証、要件 11

せ
接続、USB デバイス 39, 40

て
ディスプレイ要件、ローカル モード デスクトップ 9
テキスト、コピー 41
テキストとイメージのコピー 41
テキストとイメージのペースト 41

デスクトップ
サスペンド 46
シャットダウン 46
バックアップ 46
リセット 53
ローカル 45
デスクトップ
切り替え 35
ログオフ 36
デスクトップ ウィンドウ内に捕捉されたポインタ 45
デスクトップ ウィンドウ内に捕捉されたマウス 45
デスクトップから印刷 42
デスクトップの切り替え 35
デスクトップのサスペンド 46
デスクトップのシャットダウン 46
デスクトップのバックアップ 46
デスクトップのバックアップの一時停止 46
デスクトップのバックアップの延期 46
デスクトップのバックアップの再開 46
デスクトップのリセット 53
デバイス、USB 接続 39, 40

と
ドライバ、ローカル デスクトップ用にクライアント シ
ステムにインストール 45
トラブルシューティング 53

は
ハードウェア要件
Windows システム 7
スマート カード認証 11
ローカル モード デスクトップ 9

ひ
表示プロトコル
Microsoft RDP 37
View PCoIP 37

ふ
ブラウザの要件 11
プリンタ、設定 42

ま
マルチメディアのストリーミング 10
マルチメディア リダイレクト (MMR) 10

め
メディア ファイル形式、サポートされる 10
メモリ要件、ローカル モード デスクトップ 9

り
リモート デスクトップ、ログオフ 45

れ

レジストリ

View Client の設定 31

wswc コマンドの設定 31

ろ

ローカル デスクトップの構成

ネットワーク タイプをブリッジに変更 51

ハードウェア要件 9

ローカル CPU 使用量、上書き 48

ローカル デスクトップ 45

ローカル デスクトップ上の NAT 51

ローカル デスクトップの使用、チェックアウト 45

ローカル デスクトップ用のブリッジ ネットワーク 51

ローカル メモリ使用量、上書き 48

ログオフ 36

